

建設経済委員会 会議記録

- 1 期 日 令和3年4月13日（火）
午前9時26分 開会
午前11時52分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 福田 嗣久
副委員長 清水 寛
委員 足田 仁司、石津 一美、
岡本 昭治、木谷 敏勝、
椿野 仁司、村岡 峰男
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼総務係長 小林 昌弘
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

建設経済委員長 福田 嗣久

建設経済委員会 次第

日時：2021年4月13日（火）9:30～

場所：第3委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について <別紙>

【前半】

〔環境経済部〕 環境経済課、大交流課

〔コウノトリ共生部〕 農林水産課、コウノトリ共生課、地籍調査課

〔都市整備部〕 建設課、都市整備課、建築住宅課

【後半】

〔振 興 局〕 城崎振興局・城崎温泉課、竹野振興局、

日高振興局、出石振興局、但東振興局

〔上下水道部〕 水道課、下水道課

〔農業委員会事務局〕 農業委員会事務局

(2) 委員会重点調査事項について<別紙1>

5 その他

6 閉 会

建設経済委員会名簿(4/13)

【委員】

職名	氏名
委員長	福田 嗣久
副委員長	清水 寛
委員	足田 仁司
委員	石津 一美
委員	岡本 昭治
委員	木谷 敏勝
委員	椿野 仁司
委員	村岡 峰男

8名

【当局】

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
環境経済部長	坂本 成彦				
環境経済部参事	谷口 雄彦				
コウノトリ共生部長	川端 啓介	農林水産課長	柳沢 和男	農林水産課参事	井垣 敬司
		コウノトリ共生課長	宮下 泰尚		
		地籍調査課長	依田 隆司	地籍調査課参事	上阪 善晴
都市整備部長	澤田 秀夫	建設課長	富森 靖彦	建設課参事	北村 省二
		都市整備課長	石田 敦史		
		建築住宅課長	山本 正明	建築住宅課参事	谷垣 秀人
城崎振興局長	植田 教夫	地域振興課参事	橋本 郁夫	城崎温泉課長	山田 和彦
竹野振興局長	瀧下 貴也	地域振興課長	平尾 喜彦		
日高振興局長	小谷 士郎	地域振興課参事	吉田 政明		
出石振興局長	村上 忠夫	地域振興課参事	川崎 隆		
但東振興局長	羽尻 泰広	地域振興課参事	小川 一昭		
上下水道部長	河本 行正	水道課長	谷垣 康広	水道課参事	和田 哲也
		下水道課長	榎本 啓一	下水道課参事	堀田 政司
農業委員会事務局		農業委員会事務局長	丸谷 祐二		

31名

【議会事務局】

職名	氏名
主幹兼総務係長	小林 昌弘

1名

計

40名

午前9時26分開会

○委員長（福田 嗣久） それじゃあ、おはようございます。

大変暖かくなりました、けれども、コロナのほうも第4波が、特に関西圏を中心に大変厳しい数字が毎日出ております。変異種ということもあったりして、感染力が強いとか、あるいはまた、もう一つは病床が非常に逼迫してる大阪、兵庫、このような情報も出ておまして、ともかく早く終息させるということは、やはりワクチン接種と、もう一つはやはり密を避けて、できるだけもう自分たちで収めていくということ以外にないんだろうなということを思っておりますけれども、そういう中ですけれども、しっかりと協議をしながら新年度の建設経済委員会をスタートしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の委員会ですけれども、新型コロナウイルス感染症対策の関係で、委員会の密集をできるだけ軽減するため、当局職員の出席を前半と後半と2グループに分けて行いたいと思いますので、ご了承願います。

それでは、自己紹介に入りたいと思います。

今回は新年度当初の委員会であり、4月の人事異動で建設経済委員会の当局職員に異動がございました。ここで自己紹介をいただきたいと思います。

まず、委員のほうから。私、委員長を仰せつかっております福田でございます。よろしくお願いいたします。

副委員長、どうぞ。

○委員（清水 寛） 副委員長の清水です。引き続きよろしくお願いいたします。

○委員（岡本 昭治） 岡本です。よろしくお願いいたします。

○委員（村岡 峰男） 村岡です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（石津 一美） 石津一美でございます。よろしくお願いいたします。

○委員（椿野 仁司） 椿野です。よろしくお願いいたします。

○委員（足田 仁司） 足田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（木谷 敏勝） 木谷です。よろしくお願いいたします。

○委員長（福田 嗣久） それじゃあ、当局側、どうぞ、環境経済のほうから。

○環境経済部長（坂本 成彦） 環境経済部の坂本です。引き続きよろしくお願いいたします。

○環境経済部参事（谷口 雄彦） おはようございます。環境経済部の谷口でございます。列が1列前に、あわせて後ろがいなくなりました。

○委員長（福田 嗣久） どうぞ、コウノトリ共生部長。

○コウノトリ共生部長（川端 啓介） コウノトリ共生部の川端です。引き続きよろしくお願いいたします。

○農林水産課長（柳沢 和男） 農林水産課の柳沢です。引き続きよろしくお願いいたします。

○農林水産課参事（井垣 敬司） おはようございます。農林水産課参事の井垣です。2年目になります。引き続きよろしくお願いいたします。

○地籍調査課長（依田 隆司） おはようございます。地籍調査課の依田です。この4月から課長になりました。よろしくお願いいたします。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） コウノトリ共生課の宮下です。どうぞよろしくお願いいたします。

○地籍調査課参事（上阪 善晴） 地籍調査課の参事です。上阪です。4月からです。よろしくお願いいたします。

○委員長（福田 嗣久） よろしくどうぞ。それじゃあ、都市整備から。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 都市整備部、澤田です。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課の富森です。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課参事（北村 省二） この異動で、都市整備課から建設課の参事になりました北村です。引き続きよろしくお願いいたします。

○都市整備課長（石田 敦史） 都市整備課の石田で

す。都市整備課2年目になります。どうぞよろしく
お願いします。

○**建築住宅課長（山本 正明）** 建築住宅課の山本で
す。引き続きよろしく願いいたします。

○**建築住宅課参事（谷垣 秀人）** 建築住宅課、谷垣
です。この4月から参事になりました。どうぞよろ
しく願いいたします。

○**委員長（福田 嗣久）** よろしく願いいたします。
最後に、議会事務局。

○**事務局主幹（小林 昌弘）** 建設経済委員会の事務
局を担当します小林です。どうぞよろしく願いま
す。

○**委員長（福田 嗣久）** どうもありがとうございます。
今年度は当分の間といたしますか、このメンバ
ーで委員会審査を対応していただくことになりま
すので、よろしく願いを申し上げます。

それでは、協議事項に入りたいと思います。

それでは、委員会所管事項の事務概要に入りたい
と思います。

前半につきましては、環境経済部、コウノトリ共
生部及び都市整備部の順で、部ごとに説明をいた
だき、そして質疑を行いたいと思います。後半は、各
振興局、上下水道部及び農業委員会事務局という順
に進めたいと思います。

なお、委員の皆さん、当局の皆さんは、質疑、答
弁に当たりましては、くれぐれも要点を押さえて簡
潔明瞭に行うなど、スムーズな議事運営に格別の協
力をお願い申し上げます。

また、委員会での発言は、委員長の指名の後、マ
イクを使用して発言者名を名のってから行って
いただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、まず、環境経済部の説明をお願いいた
します。

坂本部長ですか。

○**環境経済部長（坂本 成彦）** それでは、資料の5
ページをお開きください。環境経済課では、4つの
係を設けておまして、係ごとに4つの項目を掲載
させていただいております。

まず、5ページは経済政策の推進という項目です。

基本方針にありますとおり、市内中小企業の経営の
安定と強化、それから企業間の連携や取引の強化、
そして起業、創業等を促すというふうなことを柱に
して、地域経済を活性化させたいというふうにと
考えております。

その概要、方針としまして、3項目設けておりま
す。1つは内発型産業育成の推進、2つ目は新型コ
ロナ対策、3つ目は環境経済事業の推進というスキ
ームにしております。

特に、2つ目の新型コロナウイルスの対策が今期
も重要なテーマになります。（1）から（3）に書
いておりますとおり、中小企業融資等の低利な融資
枠による支援、それから2つ目は小規模事業者事業
継続支援補助金、これの創設、そして3つ目は商工
団体と連携した経営相談会の開設というふうにし
ております。

2つ目の小規模事業者に対する支援ですが、これ
までステップアップ支援補助金というものを設け
て支援をしておりましたけれども、それよりも小規
模な投資、小規模事業者の事業継続を応援できる
枠をとということで、新年度新設いたしました。30%
以上の減収の方に対して3分の2補助、上限50万
円というふうな枠を設けております。これに加えま
して、実は昨日、専決補正という形でお願いをさせ
ていただいたんですけれども、経済分析の中で明る
い兆しも出始めてる中で、大きい投資をしたいとい
う事業者も中には現れてきておりますので、この辺
りの大規模な投資を支援する、ステップアッププ
ラスというものをさらに設けたいというふうなこと
で、昨日お願いをいたしたところです。こちらにつ
いては2分の1補助ですが、上限を1,000万円
支援というふうな形にしまして、枠組みとしてこの
ステップアッププラス、そしてステップアップ、小
規模事業者支援と、この3つの制度で事業者を広く
フォローできる形を取りたいということで考えて
おるところです。

（3）にしました商工団体との連携は、コロナの
中で事業者の伴走支援、相談、専門家派遣という
ふうなことをかなり頑張っておりました。

本年度も引き続き取り組んでいきたいということで、項目として上げております。

続いて、6ページをご覧ください。6ページは商工振興の推進という項目です。こちらの基本方針のところですが、3つ設けております。1段落目は、市街地の活性化ということです。2段落目は、特産業振興です。3段落目は、ふるさと納税について書いております。

この方針を実現するための概要として、7つの項目を上げておりますけれども、特に5番目ですね、ふるさと納税推進のためのPR強化等、こちらにつきましては、地場産品の返礼品によって地域経済の活性化を図りたいということが主目的の一つでありますけれども、市の大切な財源として重要な位置を占めてきておりますので、さらに新年度も強化をしてみたいというふうに考えております。

6番目のプレミアム付応援商品券の推進というものは、これは昨年度からの繰越事業でして、EAT、BUY&GIFTのことでございます。6月30日まで利用いただける商品券ということで、今年度も引き続き推進を図ってまいりたいと思います。

最後、7項目めは経済センサスということで、5年に一度の、今年センサスの年になっております。6月1日時点での事業者の経営状況等を把握するというので、これも本年度の重要な仕事の一つになってまいります。

続いて、7ページをご覧ください。こちらは企業支援の推進という項目です。方針としまして、方針も概要ともですけど、2つ項目を設けておりまして、1つは企業立地で、2つ目はものづくり支援、この2つをテーマに今年も取り組んでいきたいと思っております。

概要1の企業立地のほうですけども、現在のところは(3)ですね、県道但馬空港線の沿線に産業用地整備というふうなことで、引き続き取り組んでおります。それから(4)の中で、特にIT企業の誘致ということに近年、力を入れております。大型の施設整備がなくても進出していただけるという

ことや、若者や女性の働き場所としても有望だというふうなことで、IT企業の誘致に今年度も引き続き力を入れてまいりたいと思います。

ものづくり支援のほうは、豊岡市工業会等を中心に推進してまいりたいと思っております。

続きまして、8ページ、9ページです。こちらには移住定住の推進ということで書いておりますけれども、基本方針といたしまして、UIターンを促して、地域の企業ともマッチングをしながら、経済活性化を図ってまいりたいというふうに考えております。コロナ禍の中で、地方への関心が高まっております。豊岡市もさらにこの分野には力を入れてまいりたいというふうに思っているところで

す。実現のための概要では、5項目を上げておりますけれども、一番最後の5番目ですね、地域おこし協力隊というところが、最近、応募が非常に多い状況になっておりますので、さらに積極的に展開をしていきたいというふうに考えております。特に(1)に記載しておりますSMOUTという移住スカウトサービスを今使ってるんですけども、これがかなり効果を上げておりますので、今現在、地域おこし34人、活動をいただいております。ここを、さらに地域の元気につなげるために、呼び込んでまいりたいというふうに思っております。

新しい取組として(2)です。これまではこちらが地域課題を提示をして、それに解決に乗り出そうという若者が応募いただくというふうな形を取っておりますけれども、新しく自分がこういうことがやりたい、それで起業したいというふうな応募者提案型、起業型というふうな枠を設けて、そういう若者を、地方に入ってきていただきたいというふうに考えているところです。

環境経済課からは以上です。

○委員長(福田 嗣久) それでは、大交流願います。

○環境経済部参事(谷口 雄彦) 大交流課からは、9項目につきまして説明をさせていただきたいと思っております。資料は10ページになります。よろしく

お願いします。

まず、情報戦略の推進ですけれども、新型コロナの感染拡大によりまして、人々の旅のスタイルや考え方に変化をもたらすだろうということから、昨年度ですけれども、ポストコロナ時代を見通した大交流ビジョンを策定をいたしました。その中で基本的な方針ですけれども、豊岡の6つの地域を1つの豊岡として、外向け、内向けに対して情報を発信をしていこうということが1つ目の基本方針でございます。また、単なる観光地、観光の消費地としてではなく、共感や交流の地として豊岡を選んでくれる人たちをまた戦略のターゲットとしたいというふうに考えてございます。

主な事業ですけれども、これはもうほぼ継続事業でございます。去年開催できませんでした豊岡ファンミーティングを改めて開催をしたいというふうに考えてございます。また、フェイスブックや国内向けの観光サイトなどの充実も図ってまいりたいというふうに考えてございますし、豊岡ツーリズム協議会の事業といたしまして、各旧1市5町がそれぞれ情報を提供し合って連携していくような事業も進めてまいりたいというふうに考えてございます。

次が11ページになります。国内誘客の推進でございます。こちらも新型コロナの感染拡大の影響によりまして、新たな需要を取り込む必要があるというふうに考えてございます。また、これまで城崎温泉がよく認知されている一方で、市内他地域への想起だとか収入につながってないという課題がございましたので、新市場を開拓するとともに、ワーケーションなどの新たな需要を取り込みたいというのが2つ目の基本方針でございます。また、市内の周遊を促進するための体験型コンテンツの造成などに努めてまいりたいというふうに考えてございます。

主な事業ですけれども、5番の玄武洞公園整備事業、いよいよ今年度、整備事業に入りまして、玄武洞そのものの魅力をより感じていただけるような環境づくりに努めるとともに、有料化に向けた整備

工事を行いたいというふうに考えてございます。

次は、12ページでございます。まずは、7番ですけれども、昨年度KDDIにより、城崎国際アートセンターに5G基地局を設置をいただきましたので、それを活用するという意味で、城崎国際アートセンターのエントランス部分にテレワーク拠点を整備したいというふうに考えてございます。

また、公共ではなくて、民間のワーケーションの環境整備も促すという意味で、6番でございますけれども、民間事業者が行う整備、備品の購入等に対して補助を行うような制度を設けてございます。

8番は観光地の魅力強化事業ということで、昨年度もコロナ対策として実施をさせていただきましたけれども、今年度はその整備自身が話題性を持ちまして、集客の目的となるようなコンテンツの造成でありますとか、新たなサービスの開発について補助をしたいというふうに考えてございます。

次は、13ページでございます。海外戦略の推進で、こちらは、新型コロナウイルスの関係でもうほとんど需要が消えてしまっておりまして、今年度につきましても、最小限の予算でできるだけリアルな活動、または営業活動などのリアルな活動は見合わせまして、オンライン上での必要最低限の取組を進めてまいりたいというふうに考えてございます。また、回復が比較的早いと想定されるアジア市場につきまして、プロモーションの強化を進めてございます。

事業につきましては、特に新規事業、大きな拡大等はございません。

次に、15ページをお願いします。新規事業でございますけれども、観光データ基盤の構築ということで、これまで観光事業者の方々にご協力いただきまして、宿泊データ等をアナログで過去のデータとしていただいていたけれども、今回の新型コロナウイルスの感染拡大によりまして、地域全体の現在の状況が把握できていないというような課題が浮き彫りになりました。このため、地域全体のデータを見える化し、タイムリーに把握をするというような基盤をつくりたいというふうに考えてござ

います。そうすることによりまして、的確なマーケティングを行うとともに、地域全体の収益性を高めて、経済波及効果が増加するというふうに考えてございます。

概要でございますけれども、宿泊予約データを自動に収集するシステムの開発、また、収集、蓄積したデータの分析と活用、それから新たな技術を活用した新たなサービスの展開などを考えております。現在、この事業につきましては観光庁の調査事業にエントリーをしております、もしそれで採択をされれば全額、観光庁の予算、国の予算で実施をできるということで、今その結果を待てるような状況でございます。

次に、16ページでございますけれども、豊岡スマートコミュニティの推進ということで、この事業につきましては、トヨタ・モビリティ基金と協業で昨年度より実施をしております。この新型コロナウイルスの拡大によりまして、疎であることの価値が見直されておりますけれども、その非効率や弱点をテクノロジーでカバーをし、フラットにつながるコミュニティづくりを目指したいというふうに考えてございます。

現在、主な取組といたしましては、竹野南地区を中心にしたコミュニティの活性化の取組、それから路線バスを中心とした公共交通の再編の検討、それから訪問系のモビリティの共用、シェアの実験、それから防災につきましてはLINE等を活用した情報収集システムの検討などを行ってるところでございます。

次、17ページでございますけれども、芸術文化観光専門職大学との連携ということで、この4月1日に念願の4年制の大学が豊岡市に開学になりました。市としては、この大学が有する機能でありますとか多様な専門的人材、それから知識を最大限活用することを基本とさせていただくとともに、学生の地域における活動によりまして新たな価値の創造でありますとか、学生の地域への定着を図ってきたいというふうに考えてございます。

概要ですけれども、大学に設置をされますリサー

チ&イノベーションセンター、自らRICと呼んでおりますけれども、そうしたところとの連携によりまして、地域課題の解決に努めてまいりたいというふうに考えてございます。また、芸術文化観光専門職大学に寄附ということで、8億円の寄附を大学法人のほうにしたいというふうに考えてございます。

次、18ページでございますけれども、アーティスト等の移住促進ということで、こちら、昨年度から引き続き継続の事業でございます、今年度、特に新しい事業、大きな変更等はございません。青年団との連携を進めることによりまして、アーティストでありますとかクリエイターの本市への移住を促進したいというふうに考えてございます。

次は19ページでございます。豊岡演劇祭の開催支援ということで、深さを持った演劇のまちづくりのリーディングプロジェクトであります豊岡演劇祭の開催を今年度も支援したいというふうに考えてございます。深さを持った演劇のまちというブランドイメージを構築するとともに、まちづくりと連携した演劇祭として、地域課題解決のための実験のプラットフォームとして位置づけまして、民間事業との協業により事業を進めてまいりたいというふうに考えてございます。

事業の内容につきましては、今年度の事業の開催、それから来年度の演劇祭の開催準備でございます。

次に、最後、20ページでございます。城崎国際アートセンターの運営ということで、こちらにつきましては継続事業でございます、特に今年度、大きな変更等はございません。アーティスト・イン・レジデンス事業を中心に、これまでどおりの事業を進めてまいりたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○委員長(福田 嗣久) 環境経済部の説明は終わりましたけれども、環境経済部につきまして質問はございませんでしょうか。

○委員(村岡 峰男) いいですか。

○委員長(福田 嗣久) 村岡委員、どうぞ。

○委員(村岡 峰男) 幅広く事業の説明があったんですが、最初、自己紹介でも谷口参事が言われたよ

うに、人材的に半分以下ですね、昨年度から見たら。城崎アートセンターも所長がおられましたからね。そういうふうに見ると、やれるんかと、お二人で。これまで5人だったやつが、5人でかかれた事業を2人でこれはやれと。この人事異動で何っちゅうむごいことをするんだと一瞬思ったんですけども、ただ単なる決意だけじゃなくて、やれるんかどうかね、これだけの膨大な事業を、まず聞きたいと思うんですが、ただ単なる決意というだけではなしに。

○委員長（福田 嗣久） 坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） やってみるといって挑戦かなというふうに思っています。間違いなく組織としてはすっきりする形になるので、意思決定だとか協議も含めてみんなでやって、スピーディーに取り組むって意味ではむしろ必要なことかも分からない。コロナの中で、特にそういう意思決定をこれまでやってきて、もうみんなで協議をして結論を早く決めて、すぐに進めろみたいなことをやってきたので、その流れを通常の中でもやれるかというふうなチャレンジかなと思っておりますので、前向きに捉えてやっていきたいというふうには思っています。

○委員長（福田 嗣久） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 前向きに捉えてやっていかなきゃならんのかなと思うんですけども、毎回見るたんびにもう本当に大変だなと思った、午菴課長は何だったんだいやと。なしで今度やれっていうわけでしょう。ここで言ってもしやあないのかな、人事で言わなきゃ、僕は知らんけども、こんな感想を持っています。以上です。

○委員長（福田 嗣久） 村岡委員、よろしいか。

○委員（村岡 峰男） はい。

○委員長（福田 嗣久） ほかの委員の皆様いかがでしょうか。

○委員（岡本 昭治） 一つ、すみません。

○委員長（福田 嗣久） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 7ページの但馬空港線の産業用地の整備ってというのは構想の中に上がってきて、去年、おとどしぐらいでしたかね、募集って

うか、応募ですね、応募されそうな企業だか何だか既にあるんだというような話をお聞きしたことがあったんですけども、現状はまだできていないので、本格的な勧誘っていうのはできてないかも分らないけど、何か動きがあるんでしょうか。

○委員長（福田 嗣久） 坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） 連絡を取り合ってる企業さんはございます。また、整備のほうはまだこれからという状況ですので、ここは引き続き連絡を取りながらという形だと思っております。

○委員長（福田 嗣久） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 結構です。

○委員長（福田 嗣久） よろしいですか。

○委員（岡本 昭治） ありがとうございます。

○委員長（福田 嗣久） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 谷口部参事の色が出るとるのかなと思って、先ほど村岡さんじゃないんだけど、よう張り切るとるなっていうのがよく分かっていいんで、その張り切りをずっと続けられるように頑張ってもらいたいと思いますが、その中でね、10ページの基本方針の中に、豊岡の6つの地域の多様な魅力を連携するOne Toyooka、非常にいい言葉だなというふうに思うんです。でも、それってなかなか合併以来、特に観光なんかを見てもそうなんだけども、なかなか一つになるということが、それぞれの環境が違うってということと、文化も違います、歴史も違う、こういったところをどういうふうにして本当にうまく連携していくのかなと。これは本当に大きな課題だと思います。でも、これはやらないとやっぱり駄目だというふうに思っているんで、この辺のことについてより具体的にね、どうやって本当にこの連携をする施策というんか、そういう仕組み、仕掛けをしていくのかな。これは行政っていうか、市役所だけではできない、もう地域の皆さんがあつてのことだから、これを単なる観光協会だけの連携だけでは僕は駄目だろうと思うんですよ。この辺を本当にどういうふうにつなげていくのか。しばらくは見させてもらうけれど、結果、駄目でしたっていうことにならんように、ひとつ、これは取組を

片方で急ぎながらやってほしい。これは希望です。後で、また何かそれについて、いやいや、具体的にこんなことも今考えていますということがあったら、それを表してほしいと思います。

それから、それにつながっていくんだけど、11ページのここに書いてある、いわゆる先ほどの関係と関連するようなことになってしまいうんだけど、市内周遊だとか連携、こういったことに、これにまた合致していくのかなというふうに思うので、この辺のことをちょっと併せてお願いをしたいと思います、取りあえず。

○委員長（福田 嗣久） 谷口部参事。

○環境経済部参事（谷口 雄彦） ご指摘のとおり、観光協会だけの動きでは実際になかなか難しいことは分かかってきましたし、ヒアリングしますと、やっぱり事業者の方々が他の地域の情報をほとんどご存じなくて、次どこに行ったらいいですかというようなお客さんの問合せに対して、地域の魅力を伝えられてないっていうようなことが分かかってきたので、というか、市外を案内されたいっていう方もいらっしゃるっていうことが分かかってきた。そこを情報をいかに共有して、勧め合うかっていうような仕組みが大事なというふうに思ってますけれども、なかなかそれを実際にしていくのは難しいとは思いますが、そういった、もう少し観光協会の下に下りた事業者のレベルで相互に連携し合えるようなことを、意識も含めてやっていきたいというふうに思っています。

それから、11ページのところにも関わるんですけども、例えば城崎でやっておられる、城崎で体験できるステキ体験旅行社っていう取組につきまして、城崎でしか、それが情報が発信されてないとか、出石は出石で公社やっておられることは出石でしか発信されてなくて、城崎に泊まれた方が、出石でこういった活動ができますよというようなことが、きちっと届けられてないっていう課題もありますので、そこをTTI、それからツーリズム協議会が中心となって結んでいきたいというふうに考えています。頑張っていきたいと思います。よろしく

お願いします。

○委員長（福田 嗣久） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 今、例えば隣に福田さんがおんなるけど、但東町はもうすぐしたらチューリップまつりが。

○委員長（福田 嗣久） もう始まってます。

○委員（椿野 仁司） 始まってるんですか。14日からと違ったっけ。

○委員（椿野 仁司） 昨日か、そうか、始まってる。それでね、そういう例えば四季に応じたいろんなイベント、取組を、ただあそこではこんなことをやっておられるということをやっぱりするのではなくて、それをさらに今はコロナ禍だから、なかなかうまいこといかないんだけど、やっぱりそういう取組を、来られた方、市内も含めて、そういう何か情報を提供してくれとるんだけど、この連携っていうところ辺がまだまだなのかなというところで、周遊ということが出とったから、豊岡のそういった観光地やそういったイベントの周遊を、どうやってそろえてPRしていくかっていうこともやっぱり大事ななと思いますから、その辺。それから交通面でも、やっぱり車で来てない人だとか何かそんなこともあるので、金が多少かかることも分かんないんだけど、何かそういった、一度そういうテストをして周遊のバスを走らせるとかね、何かそんなことも考えたらどうかなと思うんです。バス事業者が今、非常に苦しんでおられるところがあるので、そういうこともやっぱり取組を入れたらどうかなというの、これは一応意見です。

それから最後に、19ページの今いろいろと、今日の神戸新聞にも出ておりましたが、深さを持った演劇のまちづくりなんだけど、まだまだ市民的には演劇をまちづくりにというところには、皆はてなマークなんですよ。これを本当にどういうふうに、さらに市民の皆さんに理解を求め、そしてその方向、そのまちづくりに対する、豊岡のまちづくりの、これが全てではないと思うんだけど、演劇のまちづくりと大きな旗を上げたわけだから、それは一体、本当に目指すところはどなんだったっていうところ辺を

もう少しより具体的にやっついていかないと、何か今のままでいくと城崎のアートセンター、それから江原の河畔劇場、そういう場所場所で何かやっついていうような捉え方をするから、そうではなくて、全市的にどうなんだっていうところ辺を、さらにやっぱりこれは努める、市民の皆さんに理解をしてもらえ努力はもっともっとすべきではないかと思うんですが、いかがですか。

○委員長（福田 嗣久） 谷口部参事。

○環境経済部参事（谷口 雄彦） ご指摘のとおり課題感を持っておりまして、市民の方々の日常と演劇との接点っていうものがほとんどないので、そこをきっちりつくって行って、自分たちの生活だとか町にとって、どういった効果があるのかっていうようなことを伝えていく必要が、理解していただく必要があるというふうに思っています。例えばコミュニケーション教育をやってますけども、子供であったり、その保護者の方々にとっては実感があるんだけど、そうでない方々には分からないとか、発達障害のことについてもそうですよね。そういった一般の市民の方々の日常と演劇を、どう接点を持っていくかっていうことが課題だと思ってます。これに努めていきたいと思っております。

○委員長（福田 嗣久） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 最後の1点。例えば去年、演劇祭を、まあまあ、コロナの中で思ったほどはできなかったと言いながらも、実績は上げたというふうに思ってますね。その中でも、江原の、ここには清水君おられるんだけど、江原の河畔劇場を中心とした演劇に対するまちづくりというんか、あれも結構いろいろと商店街の活性化のために僕はすごく役立ったと思うんですよ。そういう意味でいくと、単なる演劇ということではなくて、あなたが言うるように、まちづくりというのはそういった商店街の活性化も十分考えられるし、観光っていうところも、実際のところ、今は、神鍋にたくさんの宿泊があったという、実績が上がったっていうことも聞いているので、そういう意味でいくと、こういうものがどういふふうに今の江原地域で、特定するとあれなんだ

けど、江原地域でどうだったのかなって、その結果に、数字だけじゃなくって、地域の皆さんの反応はいかがだったんですか。

○委員長（福田 嗣久） 谷口部参事。

○環境経済部参事（谷口 雄彦） 特に江原の方々にとっては、実感として町が変わりつつあるっていうのは感じていただいていると思いますし、演劇祭期間中だけではなくて、青年団が日常的に活動することが、目に見えて活動されているので、そのことによって市民の方々の町の参加も多分増えてると思います。例えば江原駅前のあんまり使われてなかったスペースを青年団の方々が掃除をして、新たな活用方法を考えようっていうようなことをされると、そこに市民の方々が出てきて一緒にされるみたいなことも始まってますし、江原駅周辺では演劇、特に意識はされてないかもしれませんが、市民の方々の意識も変わってきてるというふうに感じています。

○委員（椿野 仁司） 以上です。もういいです。

○委員長（福田 嗣久） ほかの委員の皆さん、よろしいですか。

岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 15ページの観光データ基盤の構築のところで、これやっていただけるとは大変いいことだなと思うんですけども、一つ本年度はたしか3,000万円ほどの予算を突っ込んでやっていくということですし、先ほど説明がありましたように、観光庁の特別申請もするんだということですけども、年度当初はそういう形でシステムが立ち上がりました。あと、次年度からの運用という意味では、そこにも費用が当然かかってくると思いますけども、概算でどれぐらいのことを考えておられるのかという。

○委員長（福田 嗣久） 谷口部参事。

○環境経済部参事（谷口 雄彦） まだシステムの要件定義っていうのはほとんどできてない状況で、これから採択されてからやっついていくので、今ランニングとして幾らっていうのは概算として出してはないんですけど、基本的な考え方といたしまして、事

業者の方々が自分たちも負担をしてもつくりたいってというようなものをつくろうっていうコンセプトでやっています、基本的に月に1万円程度は負担をいただく。それで全ては賄えなくても、そのランニングの一部は、市だけではなくて、事業者の方々と一緒にその負担をしていくんだってという基本的なコンセプトでやっています、ただ単に市が情報をいただいただけじゃなくて、それを事業者の方々が1万円の価値のあるものとして返す、それはどういうものなのかっていうことを今、議論をしていて、今、城崎の旅館組合を中心にやってるんですけども、大体、事業者の方々とは、これぐらいのサービスであれば、これぐらい負担してもいいってようなことは今、議論として合意しつつあって、それを将来的には参加の事業者を増やして、市全体に広げる中で、少しでも市の負担を減らしつつ、事業者の方々に喜んでもらえる仕組みをつくっていききたいというふうに考えています。

○委員（岡本 昭治） 分かりました。それで結構です。

○委員長（福田 嗣久） よろしいですか。

○委員（岡本 昭治） はい。

○委員長（福田 嗣久） ほかの委員の皆さん、よろしいですか。

それでは、質疑を打ち切ります。

続いて、コウノトリ共生部の説明をお願いいたします。

農林水産課の柳沢課長ですね、どうぞ。

○農林水産課長（柳沢 和男） 農林水産課の概要説明は21ページから28ページまで、8つあります。21ページの農業ビジョンの推進から24ページのコウノトリ育むお米のブランド化までを私、柳沢が、25ページの農業用施設管理及び基盤整備促進事業から28ページの水産業の振興までを井垣参事が説明します。よろしくをお願いいたします。

では、21ページをご覧ください。農業ビジョンの推進についてです。

現況と課題、基本方針ですが、農家戸数の減少、農業従事者の高齢化により、農業を支える人材不足

が進んでいます。このため、2019年度末に策定しました農業ビジョンに沿って、10年先を見据えて農業を守る取組を展開することとしております。ビジョンでは、持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業の在り方を、豊岡グッドローカル農業と表現して進めることとしております。

概要につきましては、農業ビジョンの取組を具体化し、推進するため、農業ビジョン推進委員会を設置して進めていきます。特徴的な事業としましては、美しい農村と銘打って、農村の優れた景観の創出、維持を行うモデル地区の取組を2か所で展開していく予定にしております。モデル地区は公募で選定をしまして、美しい景観はもとより、イメージとして、再生可能エネルギーの徹底した利用でありますとか生き物との共生、農家レストランの経営など、グッドローカル農業の具現化を突き抜けた形で表していきたいというふうに考えております。これら、農業ビジョンの推進に当たり、総務省の地域活性化起業人の人材派遣制度を活用して外部人材を1名配置しております。

続きまして、22ページをご覧ください。有害鳥獣対策事業の推進についてです。

現況と課題、基本方針ですが、野生動物による作物被害は後を絶たず、農業者にとって大きな問題であります。農業者の生産意欲の減退、農地の荒廃につながっていきますので、継続した対応が必要です。このことから、従来行っている獣害防護柵や捕獲柵等の設置による防除対策を行うとともに、捕獲対策として第3期のシカ有害被害撲滅大作戦、2020年度から2022年度でございますけれども、年間捕獲6,500頭を目標に推進する予定です。特に流し撃ち部隊による活動を推進し、鹿の生息状況に応じた隙間のない捕獲に取り組む方針でおります。

概要についてですが、防除対策は、防護柵等の設置や設置に対する補助の実施、地域再生協働員を引き続き配置をして、継続して取り組んでいきたいというふうに思っております。

次に、捕獲対策としまして、狩猟免許取得への補助を行うなど、後継者育成を図ること。また、有害

鳥獣捕獲班に駆除業務を委託することとして継続実施をしていきたいというふうに思っております。

続きまして、23ページをご覧ください。新規就農者の確保・育成事業の推進、農業スクール開校事業、若手農家の支援に向けた取組についてです。

現況と課題、基本方針についてですが、先ほども申し上げたとおり、農家数の減少と高齢化が顕著に現れております。このままでは農業を支える人材が不足することは明らかですので、新規就農者を増やすというふうなことで取り組んでいきたいというふうに思っております。特に若者や市外からの移住者を対象に就農を進める方針を持っておりまして、技術を学ぶ農業スクールの実施、そして農業を始める際の初期投資費用等の支援を行うこととしております。

概要についてですが、地方創生交付金を受けて、本年度も農業スクールを継続実施します。本年度は、新たに入校生が2名、在校生2名の計4名が研修を行うこととしております。就農に係る支援としましては、農業用機械の購入費等の補助による初期投資費用の支援や、就農希望者ともつながるイベント等への出展を継続して行っていきたいというふうに思っております。

続きまして、24ページをご覧ください。コウノトリ育むお米のブランド化、海外輸出の推進についてです。

現況と課題、基本方針ですが、コウノトリ育む農法による栽培面積は、2020年度で425.7ヘクタールとなっております。育むお米は一般のお米の約1.2倍から1.5倍の価格で買い取られるというふうにお聞きをしておりますけれども、生産者の所得向上につながっているというふうに考えております。このことは、消費者は高くてもコウノトリ育むお米に価値を見いだして購入していただいているというふうなことですけれども、さらにブランド力を高め、消費拡大を進めていくことが必要だと考えております。持続可能な強い豊岡農業を確立するため、コウノトリ育む農法による栽培面積の拡大と育むお米の消費拡大をさらに進めていく方

針でおります。

概要についてですが、海外の取組としてアメリカ、オーストラリア、香港の3か国を中心に本年度は計画をしております。日本食レストランやエキスポへの出展などを通じ、販売促進に努めていきたいというふうに思っております。なお、この新型コロナウイルスの影響によりまして、なかなか海外へ出向いていくということができませんので、販促活動を先行きが見通せないという状況もありますけれども、現地のバイヤーさん等と連携を取りながら、情報発信もしながら、今後の状況を見極めて進めていきたいというふうに考えております。

私からは以上でございます。

○委員長（福田 嗣久） 次は、井垣参事。

○農林水産課参事（井垣 敬司） よろしく申し上げます。引き続き25ページをご覧ください。農業用施設管理及び基盤整備促進事業についてです。本年度も市が直接管理しています広域基幹農道の維持管理、また土地改良区など、農業者の皆さんの要望にお応えするため事業を進めています。

概要をご覧ください。事業主体が兵庫県の案件からです。1、北但地区農道橋耐震化及び長寿命化事業です。耐震化事業は、五条大橋の橋脚補強1脚と、蓼川大橋で落橋防止を5か所予定しています。また、長寿命化事業として、蓼川大橋で鋼材部などの塗装と支承の防食対策を2径間で実施いたします。

以降の事業は、事業主体が市となります。2、基幹農道トンネルLED化事業です。市内に農道トンネルが4か所ございまして、神美トンネルから順次、照明施設をLED灯に更新する工事を進めてまいります。

3、農免農道安全対策事業です。日高町山宮地内のブロック積み擁壁に変状がございまして、こちらの対策のための詳細設計を行うこととしております。

続きまして、26ページをご覧ください。多面的機能支払交付金事業です。

現況と課題、基本方針に変更はございません。

概要をご覧ください。共同活動への支援と施設の

長寿命化への支援です。対象及び単価はご覧のとおりで、共同活動については121組織、長寿命化事業につきましては90組織に交付する予定であります。現在、各組織の皆さんにおかれましては、本年度の活動計画の検討や施設の点検などを行っていただいているところです。

続きまして、27ページをご覧ください。林業の振興についてです。こちらも現況と課題、基本方針に変更はございません。

概要の2、森林管理100%作戦推進事業は、森林所有者が造林事業などで行う間伐や作業道開設に対し、その一部を県と市が連携して補助を行うもので、ご覧の事業量を予定しているところです。

3、針葉樹林と広葉樹林の混交林整備事業です。高齢人工林を対象に、林業事業者が事業主体となり、災害に強い森づくりを目指して3か年サイクルを基本に行うもので、ご覧の事業を予定してございます。財源は県費100%で、県民緑税が充当されます。

次に、4、森林環境整備事業です。森林環境譲与税を財源としています。豊岡市林業ビジョン検討委員会運営では、昨年度コロナの影響で開催できずにいたもので、今年度こそ開催したいというふうに考えております。森林環境保全対策事業補助金は、林道の補修や緊急度の高い危険木の伐採等、比較的小規模な森林の課題を改善するため、補助制度を新設したものでございます。

続きまして、28ページをご覧ください。水産業の振興についてです。

基本方針をご覧ください。2017年度に策定しました豊岡市水産業振興基本計画に明記していません、以下にある4つの重点方策アクションプランに基づき、事業を実施します。

概要をご覧ください。津居山港水産基盤再編更新計画検討業務に係る支援につきましては、ご覧のとおりですが、先ほどの森林環境整備事業の豊岡市林業ビジョン検討委員会と同様、コロナの影響を受け、遅れておりますので、昨年予定していた業務の一部と併せまして実施するようにお聞きしているところ

です。また、ここに記しておりませんが、ほかにコロナの影響によりまして、過大になった在庫水産品の利活用を支援するため、昨年度同様、缶詰を5,000個購入し、災害時の備蓄品として活用いたします。

農林水産課の主要な事業の概要は以上です。

○委員長（福田 嗣久） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） これまでコウノトリ共生課からは、2本、概要を説明していただきましたけども、今年4月から地球温暖化防止対策につきましては生活環境課のほうに移管されたということで、本日はコウノトリ野生復帰の推進1本の概要説明をさせていただきます。

29ページをお開きください。2021年4月1日現在ですが、野外には220羽のコウノトリが暮らし、国内の繁殖地は関東を含む1府6県10市に広がりました。また、本年のことですけども、県内では但馬地域以外で初めて淡路市で産卵、ふ化に至り、昨年の関東地方での繁殖に続き、新しい地域での繁殖に期待は高まっているところです。そのような中、コウノトリを環境のシンボルとしたまちづくりを行おうとする自治体も増えてきており、再び豊岡の取組が先進事例として注目されるようになってきました。

本課では、概要の中段以降ですけども、概要に記載のとおり、1、市民との協働による生息環境整備、2、ラムサール条約湿地を活用した環境教育、3、生物多様性保全のための希少動植物保護など、湿地生態系の再生を核とした環境づくり、地域づくりを行っております。また、市民団体と協力した野外コウノトリの見える化支援等により、地域のつながりづくりであったり、情報発信業も行っております。

本年は、昨年延期された第6回コウノトリ未来・国際かいぎを10月30日、31日に開催する予定としており、このような機会も積極的に活用しながら、小さな世界都市の実現に努めてまいりたいと考えております。

説明は以上です。

○委員長（福田 嗣久） 続いて、地籍調査課、依田

課長。

○地籍調査課長（依田 隆司） よろしくお願ひします。30ページをご覧ください。地籍調査事業の推進についてご説明いたします。

現状と課題です。現在は、国が重点的に推進します防災・減災対策に資する土砂災害等の危険箇所や公共事業連携を図れる区域を中心に調査を推進しております。特に公共事業連携では、先行地籍調査事業によりまして、山陰近畿自動車道の豊岡北から竹野間、江野、竹野町林、坊岡地区の現地立会い調査を今年度から本格的に実施してまいります。また、豊岡北から城崎間は、公表されております2キロ幅圏内で、一部地域に着手することとしております。これらに加えまして、北近畿豊岡自動車道関係で調査してきました区域に隣接します箇所など、平野部の調査を進めていく方向でございますが、国が重点箇所とする土砂災害防止に資する区域との合致が難しくなっておりまして、調査の進め方に今後、課題となってきた次第でございます。なお、調査を行いまして登記修正を完了しました区域につきましては、地籍調査支援システムを活用しまして、地籍調査の成果管理と一筆図証明などの発行を行っている次第でございます。

基本方針としましては、地元住民や地権者の調査に対する理解と協力を得るため、現地立会い調査前に地元説明会や地権者説明会を開催しております。各地区ごとに推進委員会を組織していただきまして、円滑な調査事業の推進に努めてまいっております。また、筆界確認等に関しましては、豊富な知見を有します、現地調査能力の高い土地家屋調査士に業務委託を行うことなどによりまして、より精度の高い調査への取組を進めてまいります。

概要について説明いたします。まず、1番目です。2020年度末の地籍調査の進捗率におきましては、何分にも地番面積が多いものですから、12.1%となっております。今年度末には0.8%増の12.9%になる見込みでございます。

次に、地籍調査は、通常1つの区域当たり3年をかけて調査してまいります。表示しております2番、

3番、4番は、それぞれ上から地籍調査の1年目、2年目、3年目の調査項目と、今年度の調査区域数及び調査面積を記載しております。

説明は以上で終わります。

○委員長（福田 嗣久） 説明は終わりました。

コウノトリ共生部関係で質問はございませんか。

○委員（村岡 峰男） 一つだけ聞かせて、じゃあ、聞かせてください。

○委員長（福田 嗣久） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 26ページかな、これは多面的機能の関係なんですけど、一つは国の事業ではあるんですが、まだ取り組んでない集落っていうのも相当あると思うんで、どの程度の取組、これをやっとなる集落が全体の関係でどの程度かっていうのが1点と、この事業の中で共同活動には取り組んでます。けども、この施設の長寿命化とは別の事業になるかな。共同化だけしかしてない、けど、今年は長寿命化にも取り組もうかっていうような、そういう選択ができるのかどうか、教えてください。

○委員長（福田 嗣久） 井垣参事、どうぞ。

○農林水産課参事（井垣 敬司） 1つ目のお尋ねのどの程度というのは、どういいますか、集落数が市内にどれぐらいあって、今、活動されてる集落がどれぐらいあるかということなんでしょうか。

○委員（村岡 峰男） はい。

○農林水産課参事（井垣 敬司） 申し訳ありません。ちょっと今、分かっておりませんので、後ほどお答えさせていただきます。

○委員（村岡 峰男） はい。

○農林水産課参事（井垣 敬司） 現在、活動を行っていただいている集落数というのは、共同活動については164集落、長寿命化活動については133集落でございます。

2つ目の現在、共同活動を行っていただいております。今年度、これから申出により長寿命化活動ができるのかというお尋ねかと思っておりますけども、これにつきましては毎年、予算策定前の10月末ぐらいが恐らく期限だったかと思っておりますけども、それまでに申し出てほしいということで、夏頃から現在活動を

されておられる組織には長寿命化を、あと農会長さん等々に共同活動を含めた活動はいかがでしょうかというご案内をさせていただいておるところです。以上でございます。

○委員長（福田 嗣久） 村岡委員、よろしいか。

○委員（村岡 峰男） はい、いいです。

○委員長（福田 嗣久） ほかの委員の皆様ございませんか。

○委員（椿野 仁司） いいですか。

○委員長（福田 嗣久） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） コウノトリ育むお米のブランド化のことでちょっと聞くんだけど、海外輸出の推進ということでやるんですね、ページはどこだ、24ページか。それで、毎回っていうことはないけども、時々こうやって委員会で質問があったりもするんだけど、要は地元の消費って、このコウノトリの育む米ってどれぐらいあるのかなと。いわゆる海外に一生懸命、今、販路を見いだそうとして努力していることはよく分かるんだけど、地元のこの豊岡でどれぐらい本当に消費されてるのかっていうのはちょっとよく分かんないんで、どれぐらいあるのかなというのをちょっと教えてほしい。

それからもう一つ、海外でやられる、職員も行ったってして、一生懸命売ろう売ろうとしてくれてるんだけど、取っかかりとしてはそれが大事だろうし、そういった地元の協力とか海外の協力、いろんなところに扱ってもらえる協力をしてもらう、これ最終的に販路はどういう形で、市役所がいつも関わり合いを持たなくてもいい軌道にどういう形で乗っていくのかなと、目指すところはどうかかなっていうところ辺が、ちょっとよく分からないんで教えてほしいと思います。その2点。

○委員長（福田 嗣久） それでは、どうぞ、柳沢課長ですね。

○農林水産課長（柳沢 和男） 1つ目の質問ですけれども、地元でどのぐらいの消費があるのかということにつきましては、ちょっと数字は承知をしておりませんが、分かりません。ただ、いろんな場面でお話を聞いたりする中で、なかなか消費されてないと

いう現状もあるというふうに認識をしております。特に宿泊関係のところでお使いいただいているかどうかというふうな点につきましても、なかなか少ないんだろうなというふうな感触も持っておりますので、まずは市の中で消費をしていただくような、そういったところも重要だという認識には立っております。数字のほうは申し訳ございませんけれども、つかんでおりません。

それと、2つ目でございますけれども、海外販路の関係です。今、市役所が一生懸命先頭に立ってやってくるような状況でございます。本来であれば、米を扱っていただくような業者のところで行っていただくというのがいいというふうには思っているところですが、なかなかそこが、どういうんですか、順調に動いていかないというふうな状況もありますので、関係のところと連携を取りながら、市のほうができる部分を頑張って今やらせていただいているというふうに思っております。今のような形がベストだというふうには思っておりませんので、本来、側面支援であったりというふうなことが、市のやるべきことかなというふうには思っておりますので、そういったところをにらみながら、事業のほうは進めていきたいというふうに思っております。

○委員長（福田 嗣久） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 私も旅館をやらせてもらってますけども、原材料が高過ぎて、なかなかお客さんにそのお米を食べていただくような状況ではないんですね。でも、地元のお米を扱ってるわけですよ。だから、この辺をもう少し何か、何ていうかな、コウノトリ育む米と言ってお出しすることはいかがなものかというふうに思うんだけど、ブランド化、そういうブランドではないんで、でも、何か地元のお米という売り方の中で、もう少しコウノトリというものを引っかけたいのかなというところ辺がちょっといつも気になるところで。ええ、出ず側の演出が何かできないのかなと、地元のお米としてね、いうことをちょっと感じました。これは意見です。だから、また何かあれば工夫をしていただきたいと思います。

それから、あとは今の海外の取組なんだけれども、今、柳沢君が言うように、本当にやっぱり今のところはなかなか、いわゆる業者にお任せするところまでいってないだろうけれども、でも、最終的にはそういう形をやらないと、いつまでも市役所が関わり合いを持ってるといのはいかなものかなというふうに思います。あくまで支援という形でやっていくべきであって、主体性は一体どこにあるのかなということになると、ちょっとその辺はこれから本末転倒にならないように、やっぱりそうやって目指す方向をしっかりとやっていただきたいというふうに思ってます。これも意見です。以上です。

○委員長(福田 嗣久) ほかの委員の皆さん、よろしいですか。

○委員(岡本 昭治) すみません。

○委員長(福田 嗣久) 岡本委員。

○委員(岡本 昭治) 今のコウノトリ米のところですけども、面積が2020年度で425.7ヘクタールということで書いておられますけども、米としては有利なお米なんだよってということで認識されてますし、増えていかなきゃいけないんだけど、増えないっていう現状があるということも何かお聞きしましたので、それに対する調査をやるというような、どういう形で増やすようにしていくかという何か、また何で増えないのかなということも考えてやるというようなお話をどこかで聞いたような気がするんですけども、この中にはその施策が入ってないんですけども、別のところに出てくるんでしょうか、それとも、まず確認させていただきます。

○委員長(福田 嗣久) 柳沢課長。

○農林水産課長(柳沢 和男) 委員ご指摘のとおり、新年度予算の説明のときにもご説明をさせていただきました。今回、事務概要に載させていただいてますのは輸出の部分だけを切り取らせていただいて、載させていただいてますけども、おっしゃっていただいたように、栽培面積もここに来て少し減少傾向があるということでございます。ですので、先ほどから言ってますように、高齢化してくると、なかなかこれに取り組んでいただけないというよう

な状況もありますので、現状がどうなのかというあたりを今、調査をさせていただいております、じゃあ、どういうふうな守り方ができるのか、維持あるいは拡大ができるのかってあたりで、個人ごとをお願いをするというのももちろん要りますけれども、組織として伸ばしていくということも必要でないかなということも少しにらみながら、現状を把握するとともに戦略を立てていきたいと、そういうふうなことで今、調査をさせていただいてるところでございます。

○委員(岡本 昭治) ありがとうございます。

○委員長(福田 嗣久) 岡本委員。

○委員(岡本 昭治) 次に、28ページの1番、概要のところの津居山港水産基盤再編更新計画検討業務っていうのがあるんですけど、これ内容、どんな内容なんでしょうか、ちょっと教えていただきたいんですが。

○委員長(福田 嗣久) どうぞ。

○農林水産課参事(井垣 敬司) 申し訳ありません。委託業務自体は、但馬漁業協同組合さんが実施されます。津居山漁協の利活用の促進や現在あります施設、年がたっておるものもかなりございまして、そういったあたりの更新計画ですとか、先ほどちょっとダブりますが、津居山港全体のさらなる、どういうんでしょうか、利活用の促進を含めたあたりの委託業務を実施されるということで、市のほうはお話を伺いながら2分の1の補助をさせていただくというふうなメニューになってございます。以上です。

○委員(岡本 昭治) 分かりました。

○委員長(福田 嗣久) よろしいですか。

○委員(岡本 昭治) ついでにもう一つ、29ページの一番下の生物多様性保全の推進の中で、自然生態系保全事業、アベサンショウウオですかね、これ但東かあっちのほうでされるんですか、それともどういう保護をされているのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長(福田 嗣久) どうぞ。

○コウノトリ共生課長(宮下 泰尚) 環境省がまず

神鍋の大岡山を。

○委員（岡本 昭治） ああ、神鍋ですか。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 保護区にしておりますので、そのモニタリングといたしますか、監視を環境省とともにやっております。もう一つ、これは地域は名前は伏せているんですけど。

○委員（岡本 昭治） あんまり行かないように。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 行ったらいいんでしょうけど。旧豊岡市内のあの辺に生息していることは分かっておりまして、ここもコウノトリ市民研究所とともにモニタリングをして、変化を確認しつつ、保護しております。以上です。

○委員（岡本 昭治） 今、話が出てるように、アベサンショウウオと出石川にたくさんいるサンショウウオとは違うものという認識でいいんですか。これ小さいんですか。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 出石川のオオサンショウウオは大きなものでは1メートルぐらいになります。一方、アベサンショウウオは大きなものでも十数センチ。

○委員（岡本 昭治） ああ、そうですか。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） アカハライモリぐらいのものを想像していただければ結構かと思えます。

○委員（岡本 昭治） そういうのがたくさんいるという。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） たくさんというほどいないので、希少種ということで、我々は環境などをモニタリングしつつ保護に取り組んでいるということでございます。

○委員（岡本 昭治） ああ、分かりました、ありがとうございました。

○委員長（福田 嗣久） ほかの委員の皆さん、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それじゃあ、コウノトリ共生部の質疑は終了いたします。

続いて参ります。次は、都市整備部の説明をお願いいたします。

都市整備部の建設課、富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） よろしくお願ひします。
建設課からは2件の事務概要についてご説明させていただきます。

まず、31ページをご覧ください。市道整備の推進です。市道の整備につきましては、今年度の3月に策定しております豊岡市道路整備計画、これは今年度から2030年度までの10年間の計画です。これに基づきまして、市域内のネットワークとなる幹線道路を中心に道路整備を行っていきます。特に継続路線については早期完了を目指しまして、2021年度につきましては、概要に示しております4路線につきまして整備を進めていくこととしております。

1番目の市道福田宮井線につきましては、桁江橋の架け替え工事でありまして、これは継続事業です。既に両側の橋台、それから桁もかかっておりまして、今年度はU型水路であったり、遊水地の工事を予定しております。

2番目の上野線の道路整備、これは上野橋の架け替え事業です。こちらも橋台2基のうち1基は完成しております。もう1基につきましては今年度予定をしております。あと、橋脚につきましても2基ありますが、それも既に完成をしております。

それから、3番目の市道池上日吉線道路改良事業ですが、これは今年度全体事業980メートルのうち180メートルということで、水路に蓋をして歩道を設置するわけですが、構造物の工事は今年度で完了いたしまして、来年度、順調にいけば舗装工事をして完成という予定としております。

最後の4番目の市道風早線道路改良事業につきましては、これは新規事業ということで、城崎大橋の関連事業ということで、今年度から着手をさせていただき予定としております。

続きまして、32ページをご覧ください。橋梁長寿命化事業の推進です。豊岡市には橋長が2メートル以上の橋が1,249橋あります。これに基づきまして、2020年の3月に豊岡市道路橋長寿命化修繕計画を策定しております。これに基づきまして、計画的に橋梁の修繕や架け替え工事を行っており

ます。

今年度につきましては概要に示させていただいておりますとおり、補修工事につきましては、気比橋を含めまして全28橋、それから業務委託といたしましては、竹野の松本橋を含めまして5橋の橋梁補修設計を行うとともに、道路橋の定期点検ということで、これは法律で5年に一度、近接目視による点検をしないとイケませんので、今年度につきましては414橋の橋梁を点検することとしております。

建設課からは以上です。

○委員長（福田 嗣久） 続いて、石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） それでは、都市整備課からは4項目説明させていただきます。

33ページのほうをお開きください。公園施設長寿命化計画です。

現況と課題、基本方針についてですが、市が管理します公園について、特に都市公園につきましては、2019年度に公園施設長寿命化計画を策定いたしまして、社会資本整備総合交付金、あるいはまた、公共施設等適正管理推進事業債の財源を活用しまして、補助事業あるいは起債事業で公園施設の更新も併せて実施しているところです。

概要についてですが、都市公園のうち、防災・安全対策を目的とした社会資本整備総合交付金事業では、対象面積が2ヘクタール以上の公園で4公園ございます。遊具やフェンス等の公園施設が対象となります。なお、2ヘクタール未満の公園では13公園ございまして、遊具のみの更新が対象となります。2019年度から2023年度までの5か年を計画期間といたしまして、補助率は2分の1でございます。また、2021年度は、2020年度からの繰越事業1公園、これは中央公園のいこい、通称SL公園ですが、そこを含めて市内3公園の遊具を更新する予定です。

また、施設の長寿命化対策を目的とした公園施設等の適正管理推進事業債では、対象面積が2ヘクタール未満の公園で16公園ございまして、フェンス等の公園施設のみが対象となります。2020年度

から2021年度、今年度ですが、の2か年を計画期間といたしまして、起債充当率は90%で、今年度の元利償還に係ります交付税算入率はおおむね2分の1、50%です。2021年度につきましては、出石城公園の登城橋の改修工事を行います。

続いて、34ページのほうをご覧ください。Weぶらざ整備事業です。

現況、課題、基本方針についてですが、こちら、1991年3月に整備されました江原駅のWeぶらざは、竣工後30年が経過し、屋根からの雨漏りが絶えない状況にあります。今回、抜本的な雨漏り対策として、自由通路及び東西階段の屋根、天井を改修し、あわせて経年劣化が著しい内外壁の修繕を行うということとしております。

概要です。事業費につきましては1億9,359万5,000円、財源には公共施設等適正管理推進事業債として1億7,370万円を、また、公共施設整備基金として1,980万円を充当いたします。

内容といたしましては、軌道敷上の自由通路、屋根、外壁の改修工事につきましては、JRへの委託工事となり、今月中には業務契約の締結を図ることとしており、順次、工事着手していただくこととなります。

また、軌道敷以外では、市が発注する工事となりまして、主には自由通路、東西の階段屋根、天井、内外壁の改修工事を行う予定です。4月から5月ぐらいに実施設計業務を行い、6月中には工事発注し、7月以降に工事着手というふうな予定としております。

いずれにしましても、JRとの委託工事と並行することとなりますので、十分JRとは調整を図りながら工事実施に努めたいというふうに考えます。

続いて、35ページ、空港の利用促進と利便性の向上です。

現況と課題、基本方針です。コウノトリ但馬空港は、1994年の開港以来、豊岡市をはじめ、但馬地域の活性化に大きく寄与したところです。しかしながら、昨年の2020年度の利用は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けまして、結

果的に3月31日現在の速報値で、対前年度2万4,911人減の1万5,648人という結果でありました。今年度もコロナ禍の状況で大きく利用に影響を及ぼすことが予測されますが、引き続き但馬と首都圏を結ぶ東京直行便の開設に向けた、但馬一伊丹線の年間利用率を70%とするターゲット70を継続して積極的に取り組みたいというふうに考えます。

概要です。1番から4番まで項目を上げてます。まず1点目につきましては、県、但馬広域行政協議会、市などとの東京直行便開設に向けた日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社への陳情、要望を、5月中旬頃を予定しております。

2点目としましては、県による但馬空港のあり方懇話会についてです。国が定めます滑走路端安全区域、通称RESAと申しますが、基準適用に合わせるべく検討がなされているものですが、懇話会での提言を受け、滑走路延長の必要性や規模、その他の機能強化の必要性が明らかになれば、県が事業化に向けた検討を進められる予定です。本来2020年度に懇話会の集約をなされる予定でもありましたが、コロナ禍によりまして、今年度中の集約に向けた懇話会を2回程度開催するよう変更すると伺ってます。

3点目、4点目については記載のとおりです。

36ページです。バス交通の充実と利用促進です。

現況と課題、基本方針についてですが、地域公共交通の基盤でありますバス交通について、今年度も継続して国県と協調し、主要バス路線の維持確保に努めたいと考えてます。また、路線代替交通として運行してます市営バスイナカーについても8路線で継続運行し、地域主体交通のチクタクについても、引き続き出石、但東の4つの地域で継続運行をいたします。また、今後は、新たな交通モードの検討とすることによって、公共交通の基盤でありますバス交通の維持、推進を図ることとしてます。

概要です。主な取組についてですが、1点目の主要バス路線の維持については、先ほど現況で述べましたとおりです。

2点目の地域実情に合わせた新たな交通モードの検討です。現在、竹野南地域にあつては、イナカー竹野南線の床瀬三原線が定着しているところですが、地元では、人口減少や地域の実情から、地域コミュニティを中心に今後の交通の在り方について検討がなされようとしてます。また、他の地域についても、今後の高齢化対策として、福祉関係も一緒になった公共交通の在り方についても検討がなされようとしてます。こういった今後のスマートコミュニティ推進機構との連携を深める取組を考えているところです。

3点目については、地元地域とバス事業者と市の三者協働で、社会実験として始まりました神鍋高原線の上限200円バスの運行実施です。2011年10月から2017年9月までの社会実験を経て、活性化運行、協働運行を継続していますが、2021年度に足かけ10年が経過いたします。今後、人口減少に相まって利用者も年々減少している状況の中で、今後の在り方について、地元との協議、調整をしていきたいというふうに考えます。

5点目のほうですが、2019年度から2か年の予定で、トヨタ・モビリティ基金からの助成でもって、イナカー、竹野海岸線における運行事業者と地元住民などと協働した新しい交通モードが昨年の4月にスタートいたしました。2020年度の事業として、夏期シャトルバスの実証運行におきます利用者確保に向けた再編調査を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、効果的な検証が見込めないためと判断いたしまして、本年度に予算を、前年度からの予算繰越しをして実施しようとするものです。

都市整備課からは以上です。

○委員長（福田 嗣久） 山本課長。

○建築住宅課長（山本 正明） 37ページをご覧ください。建築住宅課から4項目報告させていただきたいと思ひます。

まず、1つとしまして、37ページ、市営住宅の管理についてでございます。

現況と課題に書いております。現時点におきまし

て管理しておりますのが、185棟、市営住宅関係でございます。970戸、これらの管理をしながら運営していくという形で、その下段書いておりますけれども、耐用年数2分の1経過が160棟いうことでもう86.5パー、老朽化がどんどん進んで、それに伴います修繕等も増えてきておるという状況でございます。あと、使用料の関係の徴収ということで、徴収につきましては、記載しております2017から2019、3か年は現年度分100%、職員頑張る中で達成できると、今年度も年度末越えて、今、精算を一生懸命頑張るとるという状況でございます。

基本方針書いております。長寿命化に基づきました市営住宅の適切な管理運営、そして、本来の目的であります低所得者に対するの公営住宅の提供ということでございます。あと、それ以外の項目、目的外使用の利活用とか滞納の対策と書いておりますけれども、それらの取組としまして、概要に書いております。

市営住宅の維持管理ということで記載しております今森住宅の1号棟エレベーターの改修、それ以外、(2)にも書いております。これらの修繕等工事を行いまして、維持管理をしていきたいと。

2点目に、住宅使用料等の滞納対策ということで、(1)の中で滞納対策としまして、支払い督促、また即決和解、また退去した方につきましても、支払い督促とか少額訴訟、こういった法的措置というものを組みながら、滞納対策を進めていきたいというふうに考えております。

あと、3に、市営住宅の用途廃止に向けた取組ということで、昨年も報告させていただきました。一本松住宅、出合市場住宅、この2住宅を、まず目の前、用途廃止に向けた取組として、転居ということで、今年度から3か年、最長でも5年という前提で転居の事業を開始します。新たなところに転居していただくという取組を行う予定にしております。

あと4の市営住宅の空き室活用ということで記載しておりますとおり、定住促進お試し居住で、記載の5住宅になります。5住宅で全部で対象が15は

ございますけど、15の部屋のうち、今12戸が埋まってる状態という状況でございます。今年度、新たに15戸の戸数を3戸増やして、18に今して、また新たに拡大して取り組みたいと考えておりません。

下段に書いております栄町住宅の市内の大学、県立大の分ですけども、の方の転入の居住先として活用しとるもの、これが14戸ございまして、現在14戸のうち14戸、満室状態で利用をいただいとると。これも今年度追加で2戸増やして対応していきたいというふうに考えとるものでございます。

次に、38ページ、民間住宅の耐震化の促進ということで、ずっとこれまでからやってきております。記載しております1981年5月31日以前、つまり、旧耐震での建築物に対する耐震化への推進というような形になります。

一応、概要のところ書いておりますけれども、流れとしましては、まず簡易耐震診断を推進するというので、個人負担は無料で簡易耐震診断を実施していただいて、その結果を受けて、2の住宅耐震改修工事の推進という中に、(1)で豊岡市住まいの耐震化促進事業補助金としております。これが社会資本整備総合交付金の事業を、交付金を使っての事業になります。その中には、全体補強ということで、アの全体補強の計画の策定をかけて、その後、イの耐震改修工事費補助もしくはウの部分補強としての簡易耐震改修工事費補助、これらの補助を受けていただいて、耐震化を進めていただくという制度を設けております。エのところでは、防災ベッド等の設置助成ということで、これは防災ベッドそのものを購入していただくという形に対する補助というものでございます。

(2)のところにも、豊岡市耐震リフォーム補助金としております。これが市の単独事業でございます。アのところに、居室等補強型耐震改修工事費補助としておりますけれども、今年度から国の耐震関係の制度が若干見直しありまして、そういった関係で、全体の事業ちょっと見直しした中で、今年度からは耐震改修工事と、それに付随したリフォーム工事の補助、

これをもうセットで市単については補助をしていくという形での制度で運用していこうと考えております。それと、イのところに書いております豊岡市住まいの耐震化促進事業加算型リフォーム工事費補助ということで、これにつきましては、先ほど社会資本整備総合交付金事業と申しました。これについてはリフォームに対する補助がございませんので、市単でこのリフォームをセットにすることによって、耐震化の工事も推進していきたいということでございます。こういった制度をもって、管内の耐震化率の向上に向けて推進をしていきたいというふうに考えているものでございます。

39ページに、老朽危険空き家対策の推進ということしております。

現況、2行目以降書いておりますけれども、特定空き家2戸、早急な対応が必要と思われる空き家が20戸、このまま放置では将来危険な空き家となるおそれがある空き家が36戸、その他106戸、計164戸としております。申告等ございました、あと、追加で情報をいただいた中での現時点での数字でございます。

概要に書いてありますけれども、取組としましては、空き家等対策協議会の運営ということで、委員会、協議会においていろいろな検討をいただいた中で、具体的な事業も推進していきたいというふうに考えております。

2の老朽危険空き家の除却ということで、(1)老朽危険空き家除却支援事業補助ということで、補助内容は記載しておるとおりでございます。今年度、この補助を使つての除却を、予定としては3件、何とか取り組みたいというふうに考えてるところでございます。

続きまして、40ページ、ご覧いただきたいと思っております。土砂災害特別警戒区域内の住宅等の対策ということで、ご承知のとおり、土砂災害特別警戒区域の区域指定を行われました。豊岡管内で972か所ございます。これらの地域における区域内における住宅の除却、新たな家を確保する、移転しての住宅建設、もしくはその地域で防護壁等を設置する

といったときに対する支援、補助制度を設けて、対策を強化したいというふうに考えるところでございます。

概要のところに書いております。1のところに、豊岡市住宅土砂災害対策移転支援事業ということで、移転については、(1)の移転に関するもの、(2)の除却に係るもの、それぞれ補助内容は記載しております。移転につきましては、ちょっと見にくいんですけども、②のところに書いております、まず下の2行目のところに書いてある、利子補給上限ということで、新たに家を建設しなるときに、借り入れた資金に対する利子補給上限421万円と、県独自で上乗せを200万円して、621万円の補助と、基本は10分の10補助という考え方で制度を持っております。(2)では除却で、記載しております3分の2補助の133万3,000円という制度です。

下の2の土砂災害対策防護壁等整備支援事業、これが先ほど申しました防護壁を設置するときの支援事業でございます。それぞれアとイで住宅建築物記載しておりますけれども、それぞれ2分の1補助で、記載の75万円もしくは450万円という形で制度を設けておると。だから、現実的にはなかなかこれの適用される、手挙げられる方は現実にはないというのが現状でございますけど、推進はしていきたいというふうに考えております。

建築住宅課も以上です。

○委員長(福田 嗣久) 説明は終わりました。

質問はございませんか。

○委員(村岡 峰男) いいですか。

○委員長(福田 嗣久) 村岡委員。

○委員(村岡 峰男) 建築住宅課の関係で、1点だけお尋ねをしたいんですが、お試し住宅で、栄町住宅に大学院生が入っておられるんですが、既に入っておられる住宅の入居者の方からね、この大学院生のお試し14件、今度2件増やすというね、この人たちは、地域の活動は免除、何もせんでもええということのようなので、いわゆる日役だったり、地域の活動ができへんと。こんなことでは困るんだがな

という話があるんですが、そういう地域の活動はしなくてもいいという条件での入居ですか。

○委員長（福田 嗣久） 山本課長。

○建築住宅課長（山本 正明） ただいま、村岡委員さんからご指摘的な形でのお言葉いただきました。

栄町住宅を県立大学生の入居に、先ほど報告も使わせてもらった14分の14、埋まるとということをおっしゃっていただきました。ただ、今、委員さんのほうからいただきました、入居に当たっていろいろ当然、調整をするんですけども、そのときの段階では、あくまで地元のコミュニティの活動関係にも、強制は当然できないんですけども、可能な限り一緒になって、いろんな取組に入ってくださいというお願いをした上で、その書類も書面もある中で入居をしていただいとるのが実際です。ただ、現実、それはなかなか、そういったところが反映された行動になってないというようなところで、ちょっと先ほど言われたようなご意見が出るとんかなということで、機会があるときにまたそういった協力はしていきたいんですけども、ちょっと強制はできないんですけども、考え方としては、あくまで入居されるときにそういうお願いをして、そういうもん含めて理解いただいて、入居はしていただいとるのが実際のところはございます。

○委員長（福田 嗣久） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 強制はできないというもののね、実際に入居の費用も安く抑えてあるわけでしょう。ですから、強制に近いぐらいの要請をぜひしてほしいなど、地域での活動の参加ね。お願いしときます。

○委員長（福田 嗣久） ほかの委員の皆さん、よろしいか。

それでは、質疑を打ち切ります。

ほかにありませんので、ないようですので、この際、当局の皆さん方から特に発言はございませんね。

それでは、当局の皆さんは退席していただいて結構でございます。

暫時休憩いたします。再開は11時10分。

午前10時58分休憩

午前11時06分再開

○委員長（福田 嗣久） それでは、建設経済委員会を再開いたします。

後半の部に入ります。

今回は年度当初の委員会でありますので、4月の人事異動で建設経済委員会の当局職員に異動がございました。ここで自己紹介を行いたいと思います。

まず、委員のほうからで、私、委員長を仰せつっております福田でございます。よろしく申し上げます。

○委員（清水 寛） 副委員長の清水です。引き続きよろしく申し上げます。

○委員（岡本 昭治） 岡本です。よろしくお願いたします。

○委員（村岡 峰男） 村岡です。よろしく申し上げます。

○委員（石津 一美） 石津一美でございます。またよろしくお願いたします。

○委員（椿野 仁司） 椿野です。

○委員（足田 仁司） 足田です。引き続きよろしく申し上げます。

○委員（木谷 敏勝） 木谷です。よろしく申し上げます。

○委員長（福田 嗣久） それでは、各振興局から名簿に記載された順にお願いしたいと思います。

まず、城崎振興局。

○城崎振興局長（植田 教夫） この4月の人事異動で城崎振興局長になりました植田です。どうぞよろしくお願いたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） 城崎地域振興課参事の橋本でございます。よろしく申し上げます。

○城崎温泉課長（山田 和彦） 城崎振興局、城崎温泉課長の山田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○竹野振興局長（瀧下 貴也） 竹野振興局長の瀧下でございます。よろしく申し上げます。

○竹野振興局地域振興課長（平尾 喜彦） 竹野振興

局地域振興課長の平尾でございます。よろしくお願いいたします。

○日高振興局長（小谷 士郎） 日高振興局長の小谷士郎です。よろしくお願いいたします。

○日高振興局地域振興課参事（吉田 政明） 日高振興局地域振興課の吉田です。昨年度に引き続いてでございます。よろしくお願いいたします。

○出石振興局長（村上 忠夫） 出石振興局局長の村上です。引き続きよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 出石振興局地域振興課の川崎です。どうぞよろしくお願いいたします。

○但東振興局長（羽尻 泰広） 但東振興局長の羽尻と申します。よろしくお願いいたします。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） 但東振興局地域振興課参事の小川と申します。よろしくお願いいたします。

○上下水道部長（河本 行正） 4月から上下水道部長になりました河本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○水道課長（谷垣 康広） 水道課長、谷垣です。引き続きよろしくお願いいたします。

○水道課参事（和田 哲也） 失礼します。水道課参事の和田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○下水道課長（榎本 啓一） 失礼します。4月異動で下水道課のほうの下水道課長になりました榎本です。よろしくお願いいたします。

○下水道課参事（堀田 政司） 下水道課参事の堀田です。よろしくお願いいたします。

○農業委員会事務局長（丸谷 祐二） 農業委員会事務局の丸谷です。よろしくお願いいたします。

○委員長（福田 嗣久） それでは、最後に議会事務局。

○事務局主幹（小林 昌弘） 事務局、小林です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（福田 嗣久） どうもありがとうございます。本年度はこのメンバーで委員会審査を対応いただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、（1）委員会所管事項の事務概要に入りたいと思います。

進め方としては、まず各振興局から説明をいただきましたら、振興局一括して質疑を行います。その後、上下水道部及び農業委員会事務局の順に、部局ごとに説明、質疑を行いたいと思います。

なお、委員の皆様、当局の皆様、質疑、答弁に当たりましては、くれぐれも要点を押さえて簡潔明瞭に行うなど、スムーズな議事進行に格別のご協力をお願い申し上げます。

また、委員会での発言は、委員長長の指名の後、マイクを使用して発言者名を名のってから行っていただきますようご協力をお願い申し上げます。

それでは、まず、各振興局の説明を、城崎振興局から順にお願いをいたします。

橋本参事、どうぞ。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） まず、41ページをご覧ください。城崎振興局の取組についてご説明申し上げます。

現状と課題、基本方針につきましては、昨年度と同様になります。城崎地域では、夏休み、またカニでにぎわう漁期、そこが繁忙期となりますが、春、秋の閑散期につきましては観光客が激減しておりますので、その入り込み数の差を縮小することが課題となっております。このため、城崎温泉の景観を構成する重要な要素である街路樹や太鼓橋といった城崎温泉の代表的景観を保全し、年間を通じて観光客の誘客を図ることとしております。

具体的には、城崎振興局プロジェクトとしまして、昨年引き続き3つの取組を予定しております。1つ目は、夏の風物詩として定着し、平日の観光客増加に寄与している城崎温泉夢花火事業への支援を継続します。

2つ目に、樹木の老化等により樹勢が衰え、倒木などの危険性のある柳や桜について、剪定や植え替え、土壌改良などを実施し、大谿川の桜並木など、温泉街の美しい景観の形成に必要な樹木の健全な育成を図ります。

3つ目は、大谿川にかかる4つの太鼓橋やパラペ

ットの表面に剥離や亀裂が発生しているため、周囲の景観と調和した美装化工事を引き続き実施します。

また、本年度は御所の湯ポケットパークの池にヘドロが堆積しているため、その対策として再整備も行います。以上となります。

○委員長（福田 嗣久） それでは、竹野振興局、平尾課長、どうぞ。

○竹野振興局地域振興課長（平尾 喜彦） 竹野振興局の取組について説明させていただきます。

42ページをご覧ください。現状と課題及び基本方針につきましては、以前と同様ですので、割愛させていただきます。

取り組む事業は、振興局プロジェクト事業として3事業を計上しております。

プロジェクションマッピング事業は、昨年制作しました映像を夏と冬の2回、竹野川湊館で上映いたします。

仲田光成作品貸出事業は、先生より寄贈を受けた作品の一部について貸出しを行うものです。

竹野焼杉板景観保全事業は、竹野地域の景観保全を推進するため、家屋の外壁に焼き杉板を使用された場合、材料の一部を補助しようとするものです。

そのほか、本年度より竹野振興局で管理しております竹野川湊館の改修事業を施行することとしております。

説明は以上です。

○委員長（福田 嗣久） それでは、日高振興局の吉田参事、どうぞ。

○日高振興局地域振興課参事（吉田 政明） 資料の43ページをご覧ください。日高振興局の取組の概要を中心に説明させていただきます。

まず1日高振興局プロジェクト事業です。道の駅「神鍋高原」の隣接地に民間が進めているホテル建設のためのインフラ整備として、昨年度の上下水道管布設工事等に引き続き、今年度は道路舗装復旧工事を予定しております。次に、この民間ホテルの立地を契機として、道の駅等の機能を周辺施設等の連携により強化する計画の策定を昨年度に引き続き

実施します。また、江原河畔劇場の開館や劇団青年団の移転を契機に、市民の演劇に対する機運を醸成するため、文化芸術の活用による日高地域の活性化につながる活動を支援します。また、2016年度から行っている日高地域の先輩に学ぶ授業を日高東中と日高西中でそれぞれ開催します。

続いて、2観光事業です。7月の第4週目の日曜日に開催を予定しております日高夏まつり事業に補助支援します。昨年度はコロナの影響でイベントそのものが中止されましたが、今年度は例年の内容を大幅に縮小し、花火だけは上げたいという思いで、関係者において準備が進められています。

次に、観光施設の修繕関係です。道の駅神鍋高原については、高圧受電設備等の修繕を予定しております。神鍋温泉ゆとろぎについては、受水槽の補修工事を予定しております。湯の原温泉オートキャンプ場については、2つある高圧受電設備等の改修工事を予定しております。神鍋高原キャンプ場については、管理棟のデッキ修繕を予定しております。

説明は以上です。

○委員長（福田 嗣久） 続きまして、出石振興課、川崎参事、どうぞ。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 出石振興局からは、44ページの出石振興局の取組についてご説明させていただきます。

昨年の引き続きになります。出石への観光客はほとんどがマイカーでの来訪となっております。週末には渋滞が発生してしまっていて、特に繁忙期には大渋滞により車と歩行者がふくそうするなど、市民生活にも大きな影響を及ぼしているところです。この課題を解決するために、交通の流れや交通量の実態調査を実施して、地域の意向を踏まえた協働による交通環境の改善によって、安心して安全な城下町出石の町並みを、風情を生かしたまちづくりの一層の推進を図ることとしております。

今年の概要につきましては、今年度は昨年度実施しました交通量、駐車場利用状況、来訪者等のアンケート調査などの基本調査の結果を基に、地域課題を検討委員会で洗い出して、今後の方針を決定して、

交通環境改善計画を策定することとしております。

出石振興局からは以上です。

○委員長（福田 嗣久） 続いて、但東振興局、小川参事、どうぞ。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） 但東振興局の取組についてご説明いたします。

資料45ページをご覧ください。現状と課題、基本方針につきましては、昨年度と同様に、但東地域の人口減少を緩やかにする取組や、地域で暮らす魅力を高めていくための取組を行ってまいります。

但東振興局プロジェクト事業では、地域コミュニティと協働して、但東の住まいや生活などの暮らし情報を発信し、移住定住者を増やしていきたいと考えております。また現在、赤野移住促進住宅の5戸が空室ですので、市広報紙、市ホームページ等により入居者の募集を行ってまいります。さらに交流人口増につながる取組として、教育民泊の取組を行います。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、神戸市の中学校等の受入れは全てキャンセルとなりましたが、今後の実施に向け、神戸市の中学校と調整してまいります。

但東シルク温泉やまびこ施設管理につきましては、施設建設から約35年が経過し、山腹のり面の風化が進行したことで崩壊が発生しており、復旧に向けた調査、測量、設計業務を実施し、対策工法を検討いたします。また、経年劣化が進む設備等の更新を行い、施設の安定的な稼働、運営と利用者の安全性向上に努めてまいります。

説明は以上です。

○委員長（福田 嗣久） それでは、当局の説明、各振興局ごとに行っていただきました。

質疑はございませんか。

○委員（村岡 峰男） 一つだけ。

○委員長（福田 嗣久） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 各振興局がそれぞれ特徴を持った事業がいろいろと組まれてるんですけども、出石振興局だけが振興局プロジェクト事業っていうのが書いてないんですけども、これは表現の問題か。

○委員長（福田 嗣久） 川崎参事ですか、どうぞ。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） この出石交通環境改善計画策定っていうのも、振興局プロジェクトの中に入っていますので、単なる表現の違いです。すみません。

○委員（村岡 峰男） 分かりました。

○委員長（福田 嗣久） よろしいか。

○委員（村岡 峰男） はい。

○委員長（福田 嗣久） ほかの委員の皆様。

○委員（椿野 仁司） いいですか。

○委員長（福田 嗣久） どうぞ。

○委員（椿野 仁司） 出石のところ出たので、ちょっと今の事業内容の交通環境改善計画策定業務っていうのは、これは、いわゆる城崎が今現在もやってるんだけど、あれと同じような、そういった委員会をつくって、市民からいろんな方々に出てきてもらって、そういった検討をするというようなことですか。それからまた、専門家っていうんか、そういった今、メンバーがちょっと私にはよく分かんないんだけど、城崎のやってることが、中身、メンバーが分かんないんだけど、そういった大学の先生とか、そういういろんな方々に来ていただいて、そういったことをやり、そしてまた調査も行っていくということの同じような、同様なものと考えていいの

か。

○委員長（福田 嗣久） 川崎参事、どうぞ。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 委員会のほうのメンバーにつきましては、各観光協会とか出石公社の方の団体とかがメンバーに入ることを予定しております。また、これを実施しとる中で、当初、コンサルさんのほうでお願いしようって言ったんですけども、大学のほうで3つの、県立大学と近畿大学と大阪大学のほうで一緒になって計画を策定しようということと、今データのほうを収集をしていただいていますので、一緒に検討会で検討しようとしているところです。（「分かりました」と呼ぶ者あり）

○委員長（福田 嗣久） どうですか。

○委員（椿野 仁司） 分かりました。分かりましたって言われてしまったんで、それでいいですけどね。

もう一つ、じゃあ、ぜひ今、取組として、城崎もやって、今まだ最終の結果は出てないと思うんだけど、せっかくですから、ちょっとその辺もまた連携して、ぜひ出石も、それは本当に大変だと思うので、城崎と同様に、だから、その辺をやっぱりよく連携して、参考にして、したほうがいいのかなというの、これ意見です。

それから、日高の振興局のほうにちょっとお聞きしたいんですか、ここにも一つには、劇団青年団との連携ということで、あそこに江原の河畔劇場ができたんで、今年はコロナで、今回は、この1年間は大変、もっともっと本当は盛り上がっていくのかなということで予想してたんだけど、これからインバウンドが、またコロナが終息した後はインバウンドを、それからいろんな国内外からと、いろんな方々が江原の駅に相当来られるのではないかなと。そうすると、先ほどもちょっと大交流課のほうでも話したんだけど、やっぱりそうなってくると、江原駅周辺の活性化っていうの、大きなことになっていくのかなということ予想すれば、もっともっといろんな仕掛けを振興局で、地域の商店街とか地域の皆さんと、ここには地元の議員おられるけれど、副委員長だって黙っとうなるんだろうけど、ちょっとその辺を、もうこれからやはりコロナ終息後のことも含めた中で、江原駅周辺の活性化整備等々も、やっぱりこれから十分に手がけていける、そういう夢が広がっていくのではないかなというふうに思うので、ここにも書いておられるんで、この辺については再度、やっぱり力を注いでいくように、これはされたほうがいいのではないかなというように思います。

もう一つお聞きしたいんですけど、概要のところ、日高地域の先輩に学ぶ授業っていうのがあるんだけど、これ、ちょっと私、聞き漏らしたかも分かんないけど、一体どういう人たちに、先輩とされるかどうかという人たちを指してるのかな、ちょっと参考までに教えてほしいんですけど。

○委員長(福田 嗣久) 吉田参事。

○日高振興局地域振興課参事(吉田 政明) 日高地

域の先輩に学ぶ授業については、2016年度から行っております。日高の東西中学校の生徒たちを対象にやってる事業として、具体的に言いますと、大きく言いますと定住を目的、日高地域で頑張ってる先輩方がこんな人生を歩んでるとか、中学生当時、こんなことを思ってやってたとか、今チャレンジしてること、こんなことなんだとか、あと、地域への思い、豊岡地域が本当に好きなんだよっていうあたりのことを生徒に向かってしゃべっていただいて、中学生たちに将来のことを考えるきっかけづくりとして行ってる事業で、学校側においてもいい評価をいただいている事業で、これは振興局プロジェクトとして当初からこれまでも引き続きやってる事業です。

○委員長(福田 嗣久) 椿野委員。

○委員(椿野 仁司) いいことだと思います。それで、2016年からやられるっていうこと、ちょっと私も聞き漏らしてたので、申し訳ないんですけど、今まで。ちょっとそういうもので、何か参考になるような、どういう結果、どんなふうなことをやってこられたか、どんな人にどんなふうなことを、動員をかけられたかっていうことは、後ほどでいいので、またレポートっていうか、資料がいただけたら、委員長、ありがたいんですけど。

○委員長(福田 嗣久) 参事、資料はできますか。

○日高振興局地域振興課参事(吉田 政明) これまでお世話になった講師の先生方のリストがありますし、タイトルもあります。そういったものをまたご提供させていただきます。

○委員(椿野 仁司) お願いします。

○委員長(福田 嗣久) 各委員さんに渡していただけますか。

○日高振興局地域振興課参事(吉田 政明) はい、分かりました。承知しました。

○委員長(福田 嗣久) 後日いただいたら結構です。

○委員(椿野 仁司) お願いします。以上です。

○委員長(福田 嗣久) ほかの委員さん、よろしいですか。(「はい」と呼ぶ者あり)

質疑を打ち切ります。

それでは、続きまして、上下水道部の説明をお願いします。

まず、水道課の谷垣課長、どうぞ。

○水道課長（谷垣 康広） 46ページをご覧ください。私からは、水道施設の整備についてご説明いたします。

現状と課題といたしまして、人口減少社会を迎え、水需要の減少する中、施設の大量更新期に向けた財源の確保が大きな課題となっております。管路や施設の耐震化を図るとともに、老朽度を把握し、優先順位を明確にした上で、順次、豊岡市水道施設整備計画を見直しながら事業を行ってまいっております。

2021年度の主な事業について説明いたします。

1、大見塚受水池・配水池改築事業は、老朽化した受水池、配水池の耐震化のため、改築を行うもので、本年度は配水池の敷地造成と進入路の整備を行うものです。この事業は、本年度から完成まで4か年を予定しております。なお、本年度の事業費は工事費のみを計上してはいたしましたが、昨年度末に用地費の概算が出ましたので、6月議会にて工事費の一部を用地費に組み替えをご提案させていただき予定としております。よろしくお願いいたします。

2つ目の岩中浄水場改築事業は、老朽化した浄水池の耐震化のため改築を行うもので、昨年度に浄水池を整備いたしました。今年度は非常用発電機・電気機械設備等の更新工事をするものです。

3つ目の城崎・港給水区配水施設整備事業は、城崎・港給水区へ安定した水道水の確保のため、国県の事業に合わせ、送水管を布設するもので、本年度は約700メートルを工事するものです。

4番、城崎大橋架け替え関連事業は、県が実施する城崎大橋架け替え事業に伴い配水管を移設するもので、本年度は新橋の取り合いとなる県道改良部の移設で約400メートルを工事するものです。

5、豊岡インター線道路改良関連事業は、県道豊岡インター線道路改良工事により、豊岡病院への現道の付け替えが行われるため移設を行うもので、約

360メートルを工事するものです。

なお、この3から5番につきましては、昨年度と同様に、国県の進捗に左右され、大きく変更になる場合がありますので、ご理解いただきますよう、よろしくお願いたします。

6番目です。老朽管更新事業は、耐用年数などにより更新を計画的に行うものです。主なものに、下陰、竹野町竹野、日高町栗山地内での管路布設替え工事を計画しております。

最後に7番で、浄水場等設備更新事業は、老朽化した電気設備の更新13施設と、出石地域の監視通報装置の更新を計画しております。

私からは以上でございます。

○委員長（福田 嗣久） 続いて、和田参事。

○水道課参事（和田 哲也） 47ページをご覧ください。水道料金改定の検討についてご説明申し上げます。

水道事業を取り巻く環境は、主に人口減少により有収水量が減少していく中、施設の大量更新期に向けた財源確保の問題、防災・減災対策の必要性などにより、ますます厳しくなると考えています。水道料金は、2011年4月に値上げとなる改定を行ってから10年がたちましたが、今後も事業を健全に安定して運営するには、適正な水道料金による収入の確保が不可欠であり、2018年5月に策定しました豊岡市水道事業経営戦略では、施設の長寿命化、統廃合、企業債借入れの抑制等、様々な取組を掲げているものの、料金の値上げが必要と見込んでいます。

水道事業では、料金算定期間を5年としていましたが、昨年度中に改定の検討を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、その検討を1年程度先送りしました。このため、次期料金算定期間を2022年度から2026年度の5年間に再設定し、その期間に係る料金について適正な料金水準等を検証し、改定の要否を慎重に検討していくこととしています。

今後のスケジュールといたしましては、今月26日に豊岡市公営企業審議会を開催し、料金の在り方

について諮問する予定としており、8月か9月に答申をいただければと考えています。その後、市としての方針を決定する予定としています。料金改定をお願いしなければならないとなった場合には、全員協議会や市民説明会を経て、12月定例会で料金改定に係る条例改正案をご審議いただき、来年4月からの新料金の適用というふうに考えております。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によりましては、その検討を中断するなど、柔軟に対応していきたいと考えています。

説明は以上でございます。

○委員長(福田 嗣久) 続いて、榎本課長、どうぞ。

○下水道課長(榎本 啓一) 48ページの汚水整備事業について説明させていただきます。

継続事業なので、現況と課題、基本方針は前年と同様です。

概要について、49ページの2021年度予定箇所図のほうで説明をさせていただきます。49ページをご覧ください。統廃合事業は、予定箇所図の青色囲いになります。統廃合に向けた基本詳細設計を1処理区、公共下水道の事業計画策定業務、それと統廃合工事10処理区を行います。事業費の合計は6億6,680万円を予定しております。

次に、長寿命化事業は、予定箇所図の青色囲いになります。公共、特環、農集、漁集における各施設の長寿命化に必要な対策を行います。長寿命化の事業費合計は11億8,020万円を予定しております。

次に、その他の事業を緑の囲いで表示しております。道路工事に伴う污水管の移設工事及び雨水幹線工事等です。その他の事業費合計は2億5,400万円を予定しております。

続きまして、50ページをご覧ください。下水道使用料改定の検討についてご説明申し上げます。

下水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水型社会への移行に伴う有収水量の減少、施設の統廃合と長寿命化を確実に実施するための財源確保などにより、ますます厳しくなると考えております。下水道使用料は2016年4月に値上げの改定を行

い、5年が経過しました。2017年2月に策定した豊岡市下水道事業経営戦略では、2024年に財源が不足すると見込んでおりましたが、2019年度までの決算を踏まえますと、純利益や企業債残高など、経営戦略策定時の見込みよりも良好な状況となっております。しかし、2015年10月の豊岡市公営企業審議会の答申では、5年をベースとして定期的に見直しの必要性を検討するとの意見をいただいております。

下水道事業においても、水道事業と同じく、使用料の算定期間を5年といたしまして、昨年度中に会計の検討を行う予定をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、その検討を1年程度先送りとしております。このため、次期算定期間を2022年度から2026年度の5年間に再設定しまして、その期間に係る料金について適正な料金水準等を検討し、改定の要否を慎重に検討していくこととしております。

今後のスケジュール等につきましては、水道事業と同じです。

下水道課からは以上でございます。

○委員長(福田 嗣久) それでは、農業委員会事務局も続けて行います。

どうぞ、丸谷局長。

○農業委員会事務局長(丸谷 祐二) それでは、51ページをご覧ください。農業委員会事務局、農地利用最適化の推進についてでございます。

課題といたしましては、農業委員会法に定められた役割、農地法に基づく許認可事務に加えまして、農地等の利用の最適化の推進が重要と位置づけられております。引き続き担い手への農地利用の集積、集約化、遊休農地の発生防止解消、新規参入の促進に取り組む必要があります。

基本方針といたしましては、昨年度同様に、農業委員、農地利用最適化推進委員が連携して、地域の意向を確認しながら取組を進めてまいることといたしております。

なお、概要につきましては、基本的な部分につきましては例年と変更はございませんが、現在の委員

の任期が2年目ということになります。1年目で習得をいたしました業務内容の知識を有効に活用して、農地等の最適化活動の推進とともに、引き続き活動の実績取りまとめ、それから担当地域の課題の整理、こういったものを進めていくということにしております。以上です。

○委員長(福田 嗣久) それでは、上下水道部と、それから農業委員会の説明をいただきました。

皆さん、質疑はございませんか。

足田委員、どうぞ。

○委員(足田 仁司) 50ページの下水道使用料改定の検討という項目で、現況と課題のところで、最後に、経営戦略策定時の見込みより良好な状況であると、この前提で今年の12月議会に条例改正を予定してあるんですけど、これ、2つをつなげたら、料金は下がるのかなと思ったりするんですけど、上げるほうですか、下げるほうですか。

○委員長(福田 嗣久) どうぞ、榎本課長。

○下水道課長(榎本 啓一) 先ほど議員が言われましたことも踏まえまして、今後行われる公営企業審議会のほうで料金について審議いただきまして、最終的には審議会からいただきました答申をまた踏まえて、料金の値上げをするかどうかについて決定するというふうなことになっております。以上です。

○委員長(福田 嗣久) 足田委員。

○委員(足田 仁司) 審議会に白紙委任するわけではないと思いますので、たたき台は当局側で作成し、それについて検討いただくというパターンだと思いますので、提案するだろうという見込みが、料金の値上げを必要と考えた内容になりそうなのかどうか。良好であれば、値上げの必要があるのかどうかというのが気になるんですけど、その辺りはどうでしょうか。

○委員長(福田 嗣久) 再度、榎本課長、どうぞ。

○下水道課長(榎本 啓一) 下水道課といたしましては、経営戦略会議のほうには現状、良好だということをお伝えしまして、今のままでいいんじゃないかというようなことも考えております。

○委員(足田 仁司) 分かりました。

○委員長(福田 嗣久) ほかの委員、皆さんどうですか。

○委員(椿野 仁司) ちょっと。

○委員長(福田 嗣久) どうぞ、椿野委員。

○委員(椿野 仁司) あまり突っ込んだらどうかと今の段階で思うんだけど、でも、すごい今の話はデリケートな話で、やっぱり当局とすればっていうところ辺の基本方針が、審議会に今、本当にこれから諮られようとする中でね、やっぱりその辺は何か上水と下水はセットだという認識があるので、基本的には。だから、そういうことからいくと、何か値上げありきというふうには受け止めるんだけど、今の話だと、さっきの話だと、いやいや、そうではないんですよっていうようにも受け止められるんだけど、今の状況では、グレーならグレーでも構わないんだけど。だけど、こうやって基本的な考え方であるっていう以上は、やっぱり私たちからすれば、同時に値上げというのは非常に私は大きな影響が出ると思うので、これはようようよく本当に十分ご検討をいただきたい。

水道のほうでも言おうと思ったんだけど、本当に今、コロナのこういう状況の中でね、本当にそれは、あなたたちは、じゃあ、ちゃんともらえるもんもらえるわ、言い方悪いんだけど、値上げしなくてもいいっていうことになるんだったら、それはトータルの財政の中で考えていかなきゃいけない話だろうけども、やっぱり今はこういう状況で、本当にコロナの関係でね、経済が非常に厳しい状況の中だから、この辺は本当、慎重によく考えて、やっぱりやってくれてると思うけど、さらに私、慎重を期すべきだなという認識がある。新しく部長になられて、ご感想はどうですか。

○委員長(福田 嗣久) 河本部長、ご指名です。

○上下水道部長(河本 行正) 値上げに関しましては、私も着任しまして、そういったことで料金の見直しということはいろいろとレクを受けまして。

(発言する者あり) 当然必要な結果になれば、これは上げさせてはいただかんんですけども、基本的なスタイルといたしましては、やはり努力でもって

何とかカバーできないかということ常々模索して、いろんな方策を取りながら来ておるといのが現状でございます。やっぱり一番の目的は公衆衛生の向上ということで上下水道やっていますので、そこをきっちりと守りながら、どんだけ努力をしていて、何とかご負担のほうを少しでも軽減できるような格好では常々考えていくという、そういう方針の下でやっておりますので、審議会等の結果を見ながら、またお願いせんらんことはお願いいたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長(福田 嗣久) よろしいか。

○委員(椿野 仁司) 大変優等生なコメントをいただきました。

じゃあ、別にいいですけど、資料要求でね、今の公営企業審議会のメンバーの、ちょっと私も今、資料がどこに行ったか分かんないんで、またそれを取り寄せてください。(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長(福田 嗣久) それじゃあ、今の申出がありました資料は、また各委員にポストインしてください、公営企業審議会。

○委員(椿野 仁司) のメンバーお願ひします。

○委員長(福田 嗣久) メンバーね、お願ひします。

ほかの委員の皆さん、何かございませんか。

村岡委員。

○委員(村岡 峰男) 今、椿野議員のほうから大体出ましたので何ですが、今年9月に審議会出された答申があって、議員に説明をすると。10月、選挙なんですね。12月の議会に提案と、こうなるからね、上下水道ともに、大変なこっちゃん、大変なときになるわ。議員もね、それ出るか出んか知らんけども、10月の選挙で触れざるを得ないわけね、この審議会出てくるわけだから。それから10月選挙で、水道料金値上げになりまっせ、私、賛成しますわっていうような議員おらへんわ、選挙に臨むのに。だから、大変なときにこれ出しなるなど、もうちいと提案の時期なりを考えたほうがええんと違うんかいなと思うんですけどな。

○委員(椿野 仁司) 大変な時期を狙っとるんちゃう。

○委員(村岡 峰男) まあ、私の気持ちです。(「私たちが」と呼ぶ者あり)

○委員長(福田 嗣久) 答弁をいただけますか。あれば、どうぞ。答弁をいただけますか。どうぞ。

○水道課参事(和田 哲也) 先ほども説明しましたが、当初の予定では昨年度に検討する予定で、やむなく1年程度先送りということにしましたので、運悪くといえますか、市議会の選挙の年に当たってしまったというところで、最初から予定してたわけではありませんので、こちらにも議会の選挙があるということで、そのスケジュール的なもん、まだまだこれからなんですけども、どうするべきかっていうこと苦慮してまして、また議員の皆様にも相談させてもらいながら、適正なスケジュールは組んでいきたいと思ひますので、またよろしくお願ひいたします。

○委員長(福田 嗣久) 村岡さん、よろしいですか。

○委員(村岡 峰男) はいはいはい。

○委員長(福田 嗣久) 努力していただくということで。

ほかの委員の皆さんはどうですか。

農業委員会ございませんか。(「はい、大丈夫です」と呼ぶ者あり)

それでは、質疑を打ち切ります。

それでは、事務概要はこの程度でとどめておきたいと思ひます。

この際、当局の皆さんから何か発言がございませんか。ありませんね。

それでは、当局の皆様は退席していただいて結構でございます。

それでは、引き続き(2)の委員会の重点調査事項について議題といたしたいと思ひます。

参考までに、現行の重点調査事項を別紙1に記載しておりますけれども、新年度を迎えて、改めて協議をしたいと思ひます。

この件について、重点調査事項は9項目上がっておりますけども、特にご意見はございませんか。

○委員(椿野 仁司) これね、都市計画マスタープランってあるんだけど、これ都市計画の都計審には

みんな委員出ておられるんですけど、これ委員会で何か報告やら、何かって今まで委員さんから報告があったわけでもないし、報告聞いたわけでもないんですけど、これって委員会で重点するような事項なんかどうか。

○委員長（福田 嗣久） ちょっと待ってよ。都計審に出ておられる方は誰があります。（「3人だ」と呼ぶ者あり）

まず、報告事項はございませんか。ないですか。

○委員（岡本 昭治） 特に、そうですね、城崎のインターの関係が主題でしたけども、それだけだったってということですかね。

○委員（村岡 峰男） それだけだったからね。

○委員長（福田 嗣久） 報告事項はそれぐらいで。ほんで。

○委員（椿野 仁司） いやいや、だからね、言うては、いや、この間も議運で話が出とったから、ただ、ずっと継続して、ずっと置いとくのはいかなものかっていう話があったもんで。（発言する者あり）やっぱりもうちょっと集約したほうがいいんじゃないかっていう話があったから、これは別にいいなら、もういいってことにしたほうがいいのかは、何も重点事項に上げなかったからしないってわけじゃないんで。

○委員長（福田 嗣久） そうです、上げたからするというのも。

○委員（椿野 仁司） そうそうそうそう。上げたからするっていうわけでもないし、何かようけあってもどうかと思ったんですけども、まあまあ、いいですよ。ここに域内幹線道路の整備、これにも該当するんだろうけどね、高速道路の整備についても。

○委員長（福田 嗣久） 今の下水道、上下水道、専門職大学、新型コロナ、大変重要な課題でありますし。

○委員（椿野 仁司） まあまあ、じゃあ、そのまま置いておきましょう。

○委員長（福田 嗣久） 置いておきましょうか。

○委員（椿野 仁司） はいはいはいはい。

○委員長（福田 嗣久） ほんなら、このまま置いと

いたらというご意見ですけど、よろしいか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それじゃあ、建設経済委員会の重点調査事項はこのままにさせていただきたいと思います。

続いて、5のその他に入りますけれども、全体を通して委員の皆様から、特にご発言はございませんか。

それじゃあ、何ですか、あれを副委員長さん、団体との協議。

○委員（清水 寛） すみません、団体……。

○委員（椿野 仁司） 議員懇談会。

○委員（清水 寛） 議員懇談会について、ちょっと報告ということで。今度の5月でしたよね、議会だよりの中で、ほかの2委員会も併せて一般公募という形をします。それで、建設経済委員会としても、一般公募も併せてやるんですけども、それとは別に、なかなか経済団体というところが対象になりがちなので、そういう意味では、委員長とも相談をした上で、当然公募があれば、それも含めてとはなるんですけども、今回はJAと森林組合の2団体との懇談をしてはどうかというふうに思うんですけども、皆さん、何かご意見があればいただきたいということです。

○委員長（福田 嗣久） まず、ほかの委員会と同様に、公募をかけてみておこうかなということできせていただきますが、それは了解いただけますね。（発言する者あり）

もう一つは、今、コロナ禍が大変まだ拡大してるんで、様子を見ながらしか仕方がないんだろうなと思うんですけども、公募があれば、その公募の応募していただいた団体とする方向にすると。なければ、今、副委員長さんが言われた森林組合とかJAとか、そういった格好で、コロナの様子を見ながらでよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）よろしいですか。よろしいか。

○委員（椿野 仁司） 中身についてもお任せします。

○委員長（福田 嗣久） そのように方向づけをさせていただいて、また状況に応じてということにしたいと思いますので、ご了解のほどお願い申し上げます。

す。

ほか、皆さんのほうから何かございませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)事務局もないですか。

それじゃあ、これで建設経済委員会を閉会とさせていただきます。大変長時間ご苦労さまでした。

午前 11 時 52 分閉会
